經濟倶楽部講演速記

Y994-J2095
1200701109420

日支事變を海外より觀て

二荒芳德君

上海の將來

內山完造君

—167—

昭和十三年一月三十一日發行

立憲民政黨
政務調査館

13. 2. 4

義A
51

經濟倶樂部講演

第百六十七輯

經濟倶樂部

經濟倶樂部講演第百六十七輯　目次

日支事變を海外より觀て　二荒芳德君　一―二六
上海の將來　内山完造君　二九―六六

Y994
J2095
國立國會圖書館藏書
I種
W
1200701109420

日支事變を海外より觀て

昭和十二年十一月二十六日經濟倶樂部定例午餐會に於て

貴族院議員
伯爵　二荒芳徳君

唯今大變御鄭重な御紹介を戴きまして恐縮に存じて居ります。私は丁度十一月六日に内地に歸つて參りまして、まだ二十日少しを經過したばかりでありまして、十分なる用意も致す暇がございませぬのと、又私の旅行が歐羅巴には大體三箇月程度の滯在でありました爲に、非常な飛脚旅行を致して居ります。從つて細かい觀察が出來た譯でもございませぬし、又多くは眼で見、耳で聞いて參りましたことを皆様に申上げるやうなことになりますのでありますが、豫め是は御許しを願つて置きたいと思ふのであります。

私が東京を出ましたのは五月二十二日で、近衞内閣が成立を致したと云ふ報知を無線で船の上

で見ましたのが六月一日と心得て居ります。但し是は百八十度を越えました日附を變へました一日でありますから、日本に於きましては二日に當る日だと存じて居ります。ロスアンゼルスに着きましたのが丁度六月四日であつたのでありますが、其時にアメリカの新聞記者が參りまして、近衛内閣が成立したが、一體近衛内閣はどう云ふ内閣であらうかと云ふことを聞きましたのであります。私の乘りました船は、國際汽船の貨物船でありまして、本來ならば亞米利加の新聞記者が參るやうなことはないと心得て居つたのでありますが、近衛内閣が出來ましたことに付きまして興味を持つたと見えまして、態々訪ねて來たのだと思ひました。私と致しましては、近衛公爵とは曾てから個人的にも能く存じて居りますし、又近衛公爵の政治的見識及び國家觀、國家の政策に付ても稍々片鱗を知つて居りました爲に、其人格、識見に付きまして答を致したのであります。勿論非常に平和的な而して最も進んだ政見の持主であるし、又門閥から云つても、其經歷から云つても、或は元老に接近して居り、或は各方面の顯著な人と交遊があると云ふことを申して十二分に近衛内閣の平和的な立場を說明致したのであります。なぜそれを說明致しましたかと申しますれば、其時に丁度四月頃に起りましたソ滿國境の紛糾問題を捉へて新聞記者が次の様な質

問を致したからであります。

『ソ滿國境で大分面倒があつたやうであるが、日本はソヴイエトと佛蘭西をも敵にして戰ふのではないか』。

斯う申したのであります。ちよつとこちらで考へますと、佛蘭西を敵にすると云ふやうなことは非常に大いそれた質問のやうに見えますが、彼の申した意味は、話をして居ります中に、これは東洋に領土を持つて居る佛蘭西の意味であつたやうに思ふのであります。極く若い亞米利加氣質丸出しの男でありまして、突飛な話を致しますので、そんなことは夢にも思つたことはない、況や戰爭を日本が欲するかと聞かれるならば、それは世界戰爭をやつた後に、一體どの國が得をしたか、勝つたものも、敗けたものも非常な損をして居る、少し世界的な識見を持つて居るものは、戰爭をやらうなどゝ云ふ考を持つ筈がないぢやないかと云ふことを申しまして、彼はそれで納得を致したのであります。新聞記事に致しましては大したことは書きませぬでしたが、私と致しましては、其新聞が餘り日本に好感を持たないと云ふことを後から聞きまして、多少の心配を致して居つたのでありました。

それからパナマ運河を通りまして紐育に參りました。紐育に參りましても、まだ日支事變は起らなかつたのでありますが、ソ滿國境の關係の影響であるかも知れませぬが、可成り日本の惡口は小さい新聞には出て居つたのを記憶して居ります。丁度コロンブスと云ふ北獨逸ロイドの會社の船で紐育を出ました時に、或る宗教家で、日本にも交友を持つて居る人でありますが、非常に日本のことを攻擊致しまして、日本は相變らず野心を包藏して居るし、さうして軍部が牛耳を取つて、日本の行動を支配して居るやうだが、怪しからぬことだと云ふ攻擊でありました。私はそれに對しまして、『丁度パナマを通つて參つて、亞米利加がセオドル・ルーズベルト時代にパナマ・キヤナル・ゾーンなるものを作る爲にどんなことをしたかを私は知つて居る、あなたも恐らく知つて居るであらう、あれは亞米利加が强力を以て他國の一部を獨立させたではないか』と云ふやうなことを申して私も對抗致したのでありますが、婦人連中には理窟の如何に拘らず『軍備の充實は即ち日本が戰爭をすると云ふことを考へて居ると云はれても仕方がない』と頻りに日本を攻擊してをつた者もありました。船の中の永い間の旅で極く偶然な話の題目でありますから多數の亞米利加人の意見とも申せないのでありますが、日本に對して不理解の結果、好感を持つて

居ない人も少くなかつたやうに考へるのであります。無論日本を能く知つて居る人は、日本の立場に相當同情を致して居りまして、同情のある說明をして呉れた人もあつたのであります。

それから佛蘭西に入りましたのが七月三日でありまして、私共が蘆溝橋の事件を承知致しましたのは七月八日であつたと存じて居ります。この日は丁度巴里から獨逸に入らうと致します日でありまして、佛蘭西のサンラザールの停車場で買ひましたジュネーヴの新聞でございましたが、五六行記事が出て居りました。日支の兵がマルコポーロ・ブリツジ、即ち蘆溝橋でありますが、此處で衝突して、北京の城門は日本兵を阻止する爲に、全部閉したと云ふことが書いてあつたのであります。私は日支兩兵の衝突と云ふことには、餘り吃驚致さなかつたのでありますが、北京の城門を閉して日本兵を入れないと云ふ決意を支那側が致した以上は、是は相當重大な要素があるのではないか、日本と致しましても、城門を閉されて入らない譯には行かない、向ふも閉した以上は、武力を以て對抗するとしたならば、存外是は面倒が起るかも知れないと存じて居つたのであります。併し其當時に於きましては一遍の衝突事件と存じまして、獨逸に其儘入りましたのであります。伯林に參つて武者小路大使にこの事を聞きましたけれども、武者小路大使も一向今

度のことは分らない、又あちらに居られます防共協定に協力致しました大島少將に聞きましても十分に其内容に付ては御承知がなかつたのであります。從ひまして種々な情報は參つて居りましたけれども、それは非常に深い情報でなくして、寧ろ通信社の情報でありました。それからラヂオが、今日に於きましては毎晩歐洲では聽けるのであります。機械の力が弱いと聽かれないのでありますが、强い機械を用ひますれば午前六時に放送致します愛宕山のニュースが、獨逸の時間では晩の九時半に當りますので、これが毎夜伯林で聽かれる譯であります。でありますから其時の情報と云ふものは、英・佛・獨語で初め放送を致しまして、日本語で其後に放送をされ、最後に日本の音樂の琴・三味線迄も聽かれるのでありますが、毎晩愛宕山の放送が聽かれると云ふことは、私は實はそれを聽く迄は存じなかつたやうな次第であります。このラヂオにより日支事變の情報を時々聽かして貰つたのであります。其後事件の擴大に連れまして、當時の情報は今では申上げる程の價値もないものになつて居るのであります。即ち事變勃發後どう云ふ風に形勢は動きつゝあるかと申しますと、我が政府は飽迄も今度の衝突事件を現地主義、即ちローカライズして解決するのだと云ふことを、本國からの方針として、大使は獨逸人に說明されてをりました。

所が此ローカライズすると云ふことが、なか〳〵出來ないやうな形勢に段々なつて來るのを大使も感ぜられ、私どもゝ果してローカリゼーションが出來るかどうか、疑はしくなつて來ました。毎日の新聞により支那の方の動き方を見ますと出來ないやうに感じたのであります。と云ふのは支那は上海方面にも北支の方面にも大兵を動かして何十萬と云ふやうな兵が南北兩戰線に集結しつゝあると云ふ情報を新聞紙は傳へて居るのであります。斯う數字をずつと書き上げられました所を見ますと、日本の兵數は半分にも足つて居りませぬ。又新聞には日本側の方は殆ど其數が出ませぬし、それから情報もないのであります。是は支那の所謂空宣傳放送、又與太記事の種であつたかと思ふのでありますが、少くも私共日本人と致しましては、日本軍は割合動かないのと、兵の運送が何せよ海を渡つて船で行はれるので、時を要することから、中々心配いたしました。殊に從來日本が一度立つ時には所謂疾風迅雷、耳を蔽ふ暇のないやうな早い行動を取るに鑑みまして、今回の事件ではどうも日本軍が動かないのであります。もう何とか發展するかと思つてもまだ動かないのでありましたので、私共日本人同志ではどう云ふ風に是が動いて行くか心配だと話し合ひました。時には我々は九千萬の一人の者でありますから、九千萬分の一位の心配はして

置きたいやうに思つても、實は國務大臣のように全部が引受けた氣になつて皆心配を致して居つたのであります。

私は其第一回の獨逸訪問は、殆ど一週間で打切りまして英吉利に參ました。是は私共が派遣致しました少年團の派遣團一行十名が英吉利に着きますので、それを迎へに參りました。英吉利には其少年達と約一週間居りました。併し英吉利では北支事變の記事は出てゐますけれども決して感情的な、不愉快なものは少しも感ぜられなかつたのであります。ロンドンには横濱正金銀行支店長の加納久朗君が、同時に歐洲の國際決濟銀行の方にも關係を持たれて、あちらで活動して居られるのでありますが、同君は私前から親しい友達でありますので、同君の意見を聞きに參りました時のことを、ちよつと申上げて置きたいと思ふのであります。加納君は非常にこの事變に付きましては中々困難な立場に居られたのでありまして、自分達は一生懸命に國家の爲に爲替關係對外經濟のことに付て心配して居るが、何時も少しよくなると大事變が起るので、之では仕事の見當が付かない、働き甲斐がないとこぼして居られたのであります。銀行家の立場に在る同君としては無理のない所と存じまして、こゝに申し上げておくのであります。加納君は非常に直情徑

行の人でありまして、隨分はつきりしたことを云つて居られます。日本の前途には三つ結末があるんだ。第一番はウワー、即ち戰爭である、第二番目はソシアル・レボリューションが來るかも知れない。油斷をすればバンクラプシーが來ぬとも限らない。日本人は眞に非常時はこれからだと褌を緊めて貰ひたい。と憂國の熱調を以て私に語られたのですが、私も、戰爭はこれからだと云ふ感をつくゞく持ちます。

ウワー、戰爭は到頭やつて來たぢやないか、此次にはうつかりするとソシアル・レボリューションだぞ、斯う云はれたのであります。其當時私共第二番のソシアル・レボリューションと云ふことに付ては深く考へなかつたのでありますが、世界大戰の後に於ては隨分大きな社會的な變化を來したのでございます。此日支事變の後に來る國内問題と云ふものは、果して加納君が意味するやうなソシアル・レボリューションであるかどうかは存じませぬが、非常に大きな問題があると云ふことは、私も前から痛切に感じて居るのであります。私は若し私共が今日召集令狀を貰つて、さうして明日戰爭に向ふやうな程度の眞面目さを以て、來るべき戰後問題を解決する大英斷と大決心を持たないことには、此日支事變の戰果を、愈々十分に收め得るかどうか分らないと云

ふ位に考へて居るのであります。尙ほ私は若し我々が戰場に臨んだならば、眞に君國の爲に命を捨てなければならない、偶々運命的に我々が此處に命を永らへて爆彈の洗禮も受けず、又妻子も捨てないで居る以上は、生き殘つた人間として、日本國民として、凡ての國難に殉ずべかりし所の我々、生き殘つて居る所の我々同胞は、劍を横たへて戰場に臨んで、或は馬革に骨を包みつゝ國の爲に殉じてゐるのでありますから今生き殘りした者は其眞面目さと反省とを以て、此國內問題を解決すべき時であると私は思つて居ります。唯今日果して國內問題に付てどれ位の定見を政治家が持ち、どれ位の定見を實業家若くは財界人が持つて居るかと云ふことになりましては、私十分に其知識を持ちませぬから皆樣から御敎を仰がなければならぬと思つて居ります。外國人の見ました日本の財界經濟狀態と云ふやうなものは、是は皆樣の方が御承知だと思ひますから茲に縷說申しませぬ、冗言を用ひませぬが、唯外國風、殊に歐羅巴風に經濟を見ます點から言ひますれば、結論は悲觀的に云ふのは無理はないと思ふのであります。殊に英吉利人などの頭から考へますれば、世界戰爭の時代の經驗から、日本が日支事變の如き大きな戰爭、紛爭を引受けた以上は、其後に來るべき財界經濟上の惱みは、英吉利通りに非常に危險なものであると云ふ風に見て

居ると私は思ふのであります。併し是は情勢も違ひますし、又食糧問題其他に付きまして、彼等と全然違ふ立場にあるのでありますから、私は此經濟的方面を、我々の努力に依つて巧く打開して行くことが出來ると確信して居る一人であります。

それからもう一つ注意致すべきことは、日本に入ることを許されない幾多の單行本、又雜誌類があるのであります。例へば日本の惡口を申しましたジヤパンス・フイート・オヴ・クレー、卽ち『日本の足は粘土だ』といふ日本の惡口を可成り酷く云つたウトレーと云ふ人の本であります。此本を通して見る歐羅巴人は隨分日本の足元と云ふものは危ないと云ふ風に强く信じて居る。又場合に依りましては、永く外國に行つて居る方は兎角それ等の思想に支配されると云ふことも無理ならぬことでありまして、斯う云ふ點に付きましては將來國際紛爭が盛になればなる程、度々日本の內地から相當の人が行きまして、我が在留の日本人と云ふものに、新しい知識を與へることが必要と存じます。是は獨逸の如きは大きな國外在住の獨逸人を啓發する機關が設置されて居りまして、代り番に適當な人達が出て行つて、獨逸國內の事情を知らして居るのであります。日本も今日のやうに獨逸、伊太利と手を結んでやるやうになりますと、大體一括して、日本と云ふ

ものは、是等の國に反對する國々の人々の酷い批評――或は批判を超へて非難をも種々受けるのではないかと思ふのであります。從ひまして斯る文化的な啓發の用意は日本が今から考へて行くべきでないかと思ふのであります。外國に於ける日本を非難する書物がそれ程澤山あると同じやうに、獨逸の經濟や、獨逸國内に對する英吉利、亞米利加の批判と云ふものも多くは偏見を持つて居るのであります。さうしてそれ等の本は丸善や、三越に澤山入つて來て居るのであります。私共も獨逸に入る豫定でありましたから、日本で數冊獨逸に關する本の多少批評的なものを買つて船の中で讀んで參つたのでありますが、何れも亞米利加人や、英吉利人が書きました本でありますから、獨逸に對して一つの偏見を持つて居る、從つて其書き振りが如何にも獨逸に同情のない書き振りがしてあるのです。日本の讀書子は大體英吉利書を讀む方が多いのでありますから、日本人の獨逸觀と云ふものが英吉利本、亞米利加本に依つて相當影響されて居ると云ふことは、今後餘程我々は注意をして掛かつて行かなければならぬと思ふのであります。曾ては割合インターナショナルに世界が動いて居りましたからして、英吉利本でも亞米利加本でも世界の大勢を覗くことが今程困難ではなかつたやうに思ふのであります。然るに此頃のやうに各國が各々思想的

にも城壁を立てるやうになつて參りますと、イデオロギーの相違から致しまして相互に分らなくなつて來て居ります。從つて今後の日本の思想的な研究も各國の言葉を通し、各國の刊行物に依りまして方針を定めて行かなければならぬと云ふことを痛感致したのであります。

英吉利に一週間居りまして和蘭に入りました。和蘭に於きましては、先程御話がございましたやうに、世界各國の少年團、殊にボーイスカウトが集りまして、大會を開いて居るのでありまして、それで一週間を費すことになつたのであります。今日ボーイスカウト運動と云ふものは世界的に擴がつて居りまして、約五十箇國の國が參加致して居ります。唯其中でソヴイエト露西亞の赤色少年團、それから獨逸のヒツトラーユーゲント、それから伊太利のバリツラ、即ち少年團は之に參加を致して居りませぬ。是は參加を許さないと云ふより寧ろ從來のデモクラシーの國々より成るボーイスカウト・アツソシエーションに於きまして其入會を寧ろ遠慮して貰ひたい、と云ふやうな氣持で居りますが、獨逸は之に入りたい希望を持つて居りまして、日本の少年團の立場は、將來獨逸の少年團を此ボーイスカウト・アツソシエーションに入れるやうな世話もしてやれる立場でないかと思ふのであります。ちよつと此處で申上げたいと思ひますのは、子供を中心に

致しますボーイスカウトのアツソシエーションの國際集會に於きましても、其處に明かに強力な國家主義を持つて居るルーマニア、洪牙利と云ふやうなものには餘程フアツシズムめいた色彩がありますし、それから最も平和的に行きたいと云ふよりも寧ろ英吉利風に從つて行かうと云ふ團體にはスカンヂナビヤン・グループと云ふものがありまして、瑞典、諾威、丁抹或は芬蘭等のグループであります。是は從來の自由主義的な教育で行かうと云ふ立前でありまして、中に入つて見ますと各々國家色を持つて居るのであります。尙ほ昨今英人の使ひます英語に、私は二つの言葉を分けて使つて居るのに初めて氣が付いたのであります。それは一つはナショナルと云ふ字ともう一つはナショナリステイツクと云ふ字が使ひ分けがしてあります。獨逸は餘りナショナリステイツクだから我々とは一緒に行けない、我々はナショナルだから御互に一緒に行くんだ、と斯う云ふ風に用語の使ひ分けがされて居るのであります。それ程に歐羅巴の諸國と云ふものは、御互に神經質になつて居る譯でありまして、是は日支事變とは直接關係はございませぬが、少くとも日本と云ふ國が、獨逸に近いと云ふやうなことに付ては、相當際どい質問も受けたのであります。近いと申しますのは、質問者の方から云へばデイクテーターシップの國のやうに思つて居るのであります。唯もう一つ此處で附加へて置きますれば、獨逸人邊りは、自分の國の政治を獨裁的であるとは決して考へて居ないのであります。之も餘談になりますが、復辟に付て或る獨逸人と話し合ひました、將來前帝の後裔の人が來て、獨逸に君臨すると云ふことに付て、考へて居る人はないかと申しました所が、その人は頗る決然たる態度で『獨逸國民の忠誠は、帝政時代には臣從の關係であつた。君主に對して臣は服從して居つた關係であるから、君なるものには服從はして居つたけれども、封建的忠誠であつた。上の者はどつちかと云ふと下の者を足で踏みつけてゐたやうな傾きがあつたのだ、所が今の獨逸では、同志意識卽ちカメラードシヤフトである、兄弟同志であるのだ、或は仲間同志であるのだ、各々何れも其所を得て、ヒツトラーでも、黨の幹部でも、皆我々と同じ仲間である、同じ心で國の爲に盡して居るのである。』と、大に力說しました。丁度獨逸の此頃の標語は御承知の通り一民族、一國家、一指導者と申します。卽ちアイン・フオルク、アイン・シユタート、アイン・ヒユーラーと云ふことを頻りに申して居りまして、獨逸國は全一的なものだと斯う申して、今の行き方が獨逸としては一番進んだ行き方であると考へて居るのであります。或るナチスの人は、貴君も私共も御互に非常に幸福である、我々の所には

ヒューラーが居る、あなたの所には日本の皇室がある、然るに英吉利や佛蘭西などの國に於ては唯政治的な主腦の人達が集つて斯うのあゝのと御互に牽制しながら政治をやつて居るから眞劍のことは出來ない、信頼し得べき中心人物を持つと云ふことは、本當に御互に幸福だと云ふことを私に話したのでありますが、此一事を以ちましても獨逸が日本をどう見て居り、獨逸が彼等のヒューラーを如何に見て居るかと云ふことが之で分る譯であります。

和蘭には十三日程居りましたが、和蘭滯在中丁度秩父宮殿下が和蘭の少年團大會に御台臨遊ばされまして、特に日本少年團の野營を御視察になり、ベーデンパウエル卿と云ふスカウト運動の鼻祖である同氏が殿下の爲に萬歳を三唱されまして、四十八箇國の少年團員各人が、異口同音に歡呼致しましたのは、非常な深い印象を全世界の少年團體に與へたのでありました。

それから獨逸に入りましたのが八月十三日でありましたが、此處で一寸申上げたいのは獨逸の青少年團教育と云ふものは、全く他國の指導方法と違ふものを持つて居ることであります。他の國に於きましては、所謂社會事業でありまして、亞米利加の如きも、英吉利の如きも、澤山な寄附金、ドネーションがございますので、非常に華々しい經營でありますが、而も、是は私立團體

であり、社會事業團體であるが、獨逸は之に反しまして、全然國家の機關でありますと同時に、而も文部省と云ふものと對立した一大官廳でありますから其首席に居ります者はミニスターと云ふ字を使ひませぬで、ヒューラーと云ふ字、ユーゲント・ヒューラーと云ふ字を使つて居るのであります。直接ヒツトラーに屬して居るのであります。それでありますから、獨逸の文部省なるものは學校教育のみ管理致して居るのであります。それから苟も學校以外の社會教育、校外の指導と云ふものは今の獨逸國青少年指導廳でやつて居りまして、六百人の課員と、それから十五部局より成つてゐます。これをライヒス・ユーゲンド・ヒューラーと申します。ライヒス・ユーゲンド・ヒューラングと申すのでありますから、獨逸國の青少年指導本部と申すのでありまして指導者は皆有給でありますし、それから指導者の中にも恰も陸海軍でやつて居るやうに考査表がありまして、何度も何度も再教育を繰返しまして、いつでもナチス精神の旺盛な、さうして今の獨逸精神と云ふものを引繼ぐやうに、緻密な組織が立てられて居るのであります。それでありますから、實際の力と致しましては、學校教育は知的教育を司るのであるが、其他の行、修練、總ては此青少年指導廳が與つて居るのであります。でありますから此指導廳は僅か數年前の建設で

あるにも拘らず、今やナチズムの精神は次代の國民に向ひまして完全に叩き入れられて居るやうに思ひます。是は十四歳から十八歳を大體見當に致しまして、三つの種類に分けて教育方針を確立致して居ります。之にブント・ドイツエルメーデル、即ち少女團と云ふものが附屬致して居ります。指導を致しますものはライヒス・ユーゲンド・ヒュールングの總長フォン・シラハと申しまして、僅か明治四十年生れの三十一歳であります。三十一歳の青年がニュルンベルグのナチスの大會の如きにはゲーリング、ゲツペルス等の各大臣等と同列でヒツトラーの直ぐ側の席に腰を掛けて居ります。如何に獨逸が此青少年指導と云ふことに力を入れて居るかと云ふことが之で分るのであります。此シラハ氏はヒツトラーが初めて政權を引携げて立ちました時以來股肱の臣でありまして、コムミュニストとも戰ひ、實際生死の間を越えた人でありまして、又僅か三十一歳でありますが、其潑溂たる元氣、又立派なる教養と云ふものは、將來の獨逸青年に對する一つの憧れであると思ふのであります。尙ほ此外に日本でも時々御聞きになると思ひますが、勤勞奉仕團體と云ふものがあります。アルバイツ・デイーンストと云ふものでありますが、此アルバイツデイーンストは青少年團の教育を受けました後、兵隊に行く迄の間の半年と云ふものをシャベル

を持ち、さうして沼澤地を開墾し、これを耕地に變へると云ふことが、獨逸の國富を增す所以である、所謂勤勞と云ふものは、それ自身がもう資本に代るべきものだと云ふのが今の獨逸の見方でありまして、一つ溝を掘つて水を通すならば其水が通つた地域は肥沃になり、豐穰になる、それだけ獨逸の國富と云ふものは增して行くのであると云ふ見方であります。併し金錢的な經濟論から申しますと理解の出來ない見方でありますが、獨逸の今の見方は、何でも勤勞其ものゝ經濟とも云ふやうなもので動いて居る所は、英吉利などでは見られない有樣であります。此獨逸の青少年團指導廳から我々は公式に招待を受けまして、さうして一週間全く賓客として私共は御世話になつたのであります。國家の機關でありますから其世話の仕方も實に徹底したものでありまして、私の和蘭の宿迄向ふの外國係長が迎へに來て吳れますし、汽車は勿論一等寢台でありますしそれから私の副官のやうな世話をして吳れましたし、ブレーメン市で少年團の大會がございまして、それに公式に臨んだのでありますが、其時には今のフォン・シラハ氏が私を迎へて吳れますと同時に、停車場の廣場には軍隊S・S、即ち親衞隊、S・A、即ち突擊隊、それからK・K、即ち自動車機械隊、それからH・J即ち獨逸青少年團等がずつと列んで居りますのを檢閲いたし

ました。市議事堂では日支事件に關して言及し、世界の敵であるボルシエビズムをどうしても戰ひ潰して行かなければならぬと云ふ、最も力の入つた歡迎演說をして呉れたのでございます。斯る盛大な歡迎を觀るにつけても現在の獨逸が如何に全一的、恰も一有機體の如く動いて居るかと云ふことを見るのに良い材料でありまして、少年青年指導者が動く時には軍隊を始めあらゆる團體が一齊に援助して行くと云ふやうなことになつて居ります。又市長などは皆ヒツトラーの崇拜者であり、ナチスの黨員でありますので、市長さん自身が能く皆樣が繪で御覽になるやうなナチスの制服を着て居られるのでありますが、全く軍隊の中に入つたやうな氣持が致したのであります。又是等の人が如何に日本に對して同情があり、今度の日支事變に對して如何に熱烈な同情を持つて呉れたかと云ふことを皆樣に御記憶願ひたいと思ふのであります。餘談でありますけれども、私は度々汽車の案内場であるとか、或は宿の帳場などでよく貴方は日本に歸つて、上海方面に行かなければならぬであらうと云ふやうなことを聞いてくれまして、日本人には誰も彼もが同情して呉れました。又コロンブスと云ふ北獨ロイド會社の船の切符を買ひに行きますと、事務員が『事變で忙しいであらうから早く歸らなければならぬでしよう』と云ふ工合に日支事件に付ては深い同情を持つて呉れたのであります。この點は特に皆樣の御耳に入れて置きたいと思ふのであります。

それから今の獨逸人の我々に對します友好感情は到る所で、街頭でも見られたのであります。例へばルツセルドルフと云ふ南獨逸の都市では、今年春から夏にかけ創造博覽會と云ふのがありました、是は獨逸の經濟更生の爲にヒツトラー總統が所謂四ケ年計畫と云ふものを立てたのでありますが、最初の一年半で獨逸は既に新しい更生運動に成功致したと云ふことを國民に見せる爲の博覽會であります、シヤツフエンと云ふ字は『創造する』と云ふ字でございますが、獨逸にはこのシヤツフエンの語に對してラツフエン『奪ひ取る』と云ふ言葉があります。是は『掠めて取る』と云ふ字でありますが、獨逸の今日は所謂第三帝國時代でありまして、前期の國家時代の獨逸は、金持、殊に猶太人が利益を奪ひ取つた、即ちラツフエンたるの氣持があつたのであるが、新しき第三獨逸國家なるものは、各人各々その持場によつて其魂を打込んで物又は物の價値を創造するのだ。即ちラツフエンとシヤツフエンと云ふ言葉は對蹠的の意味のある言葉であります。そこで此の獨逸語のシヤツフエン即ち『創造』なる語は、非常な重大な新意があるのださうであ

ります。博覽會のやり方には目新しいものが澤山ありました、例へば一つの工場其ものを博覽會場内に置いてありました。ベルトは車輪に咆りを立て又爐の火は空を沖するばかりに焚かれてゐました。博覽會内の一つの陳列館が一つの工場です。勞働者は汗びつしよりになつて眞赤な鐵を鍛へて居ます。それを外から見て行くのであります。獨逸のナチ黨は即ち國民社會主義勞働黨と申しますが、其勞働精神を十二分に發揮してゐるのがこの工場で、彼等は喜々として獨逸興隆の爲に油汗を流して居ることを目の前に見せて呉れるのであります、かゝる博覽會は確かに新しい試みで、愉快に思つた次第であります。其外木材から作る砂糖であるとか、或はブナと云ふ人造ゴムの工程を示して一目瞭然分るやうに出來て居つたのであります。

尙一言ナチス大會即ちパルタイターグについて皆様に申上げて置きたいと思ふのであります。私は實は申遲れましたが、今回獨逸には前後三回に亘つて行つたり來たり致して居りまして、第一回には伯林、第二回にはブレーメン、第三回にはニュルンベルグ、と云ふ風に獨逸を訪問したのであります、其間英吉利に參り、或は佛蘭西に參つたのでありますが、佛蘭西は今は非常に左傾がゝつて居りまして、思想的にも隨分歩調が合はないのであります。例へば巴里の世界博覽會

の如きも開會後三月を經つても、まだ完全に竣功して居らぬのでありまして、ストライキ續き、怠業續きでありまして、結局博覽會の濟む時分に全部完成するのだと惡口を云はれて居つたやうな次第であります。私共巴里に泊りましても、妙な話でありますが、洗濯を一つ出すにも、若し之を出してストライキでも始まつたら、郵送して貰はなければならぬのでないかと云ふやうに心配する程ストライキがちよい〳〵あるやうに思ひます。之に比べると、獨逸は今申上げましたさう云ふものから解放されて居るのであります。所謂勞働戰線、アルバイト・フロントと云ふものがありますが、其勞働戰線の中に又少し長い名でありますが、『喜を通じての力の團體』と云ふものがあります。クラフト・ヅルヒ・フロイデと申しますが、約して申せば『喜悅力行團體』とか『歡喜力行團體』とか申して宜いと思ひますが、さう云ふやうな色々な施設をして勞働者を非常に大事にして、それには企業家も資本家も這入つて居つて、全體的に一つの勞働國家と云ふものを作りつゝある譯であります。一例を申しますれば、其歡喜力行團體に皆殆ど强制的に這入つて居ります、自分の收入から其何割かを毎週積立てまして、政府が之に補助致し、どんな勞働者と雖も一年の内に二週間位は避暑にも行けば或は避寒にも行けるのであります、でありますから

自動車や馬車に乘りまして、其馭者に歡喜力行團體に這入つて居るだらうが一體幾ら納めて居るかと申しますと、『私は一マーク二十ペニヒ拂ふ、又此友達は一マーク五十ペニヒ拂つて居る』とか申します。さうして『私共も丁度お客さん達が溫泉場でエンジョイするやうに、一年の內に一度は政府の立てた靜養所に行つて愉快に家族連れで遊ぶことが出來るのだと云ふことを自慢して申しました、從つて彼等は金持が溫泉旅行をして居るのを見まして、自分も今に何月には行けるのだと云ふ感を持つて居りますから、そこに反感も何もないと申して宜い譯であります。さう云ふやうな一つの組織が出來て居ります爲に、殆ど獨逸では、非常に前に金のあつた人で今少くなつた人は不平を申しますが、先づ一般民衆としてはヒツトラーズムを謳歌して居ります、是は武者小路さんも話して居りましたが、ヒツトラーは勞働者を非常に大事にする、又國防軍、軍隊を大事にして居るのでありまして、獨逸傳來の軍隊精神、國防精神と云ふものに付ては、非常な愛情を以て働き掛けて居るのであります。軍人仲間の評判では『どうも聰明な上等兵は年功を積んだばかりの大將よりは餘程値打がある』と云ふことを申したさうであります、ヒツトラーは御承知のやうに世界大戰の時に上等兵であつたさうでありますが、軍隊からもヒツトラーに對しては

非常に尊敬を持つて居るやうに見られるのであります。お話がわき道に外れましたが此ナチスの大會即ちパルタイターグはニユルンベルグで九月の上旬を期して約一週間行はれる一つの政黨の大會であります、政黨の大會と申しますけれども、實は獨逸國民に對するナチス政權のプロパガンダでもありますし、もつと大きくしては此ニユルンベルグと云ふ所を、ジユネーヴの所謂國際聯盟主義に對して一つのステート・ソシアリズムと云ふものゝ大本山にしようと云ふ大望を持つて居ります。私はナチスの世話人に聞いたのでありますが、此ニユルンベルグと云ふ所は御承知の通りに古い歷史的中心でもありますし、又交通も四通八達して居る所であります、茲に每年ナチス大會をやると云ふことは、此ナチズムこそ行詰つた資本主義と、行過ぎて脫線した所のコムミユニズムの兩極端を是正する、世界の新理想であると云ふ抱負を持つて居るのであります。所謂獨逸人の能く申します獨逸の世界觀が、此ナチスの大會に於て能く發揮されるのでありまして代る〳〵各大臣が會議に於きまして、ナチス精神を色々な方面から宣傳を致すのであります。ナチス大會には一つのスローガンがありまして、昨年のスローガンは名譽の爲の大集合であると申し、今年のスローガンは勤勞の爲の大集合であると申しまして、年々の會每に一つの焦點を置い

て、そこで國民精神を鍛へ上げる、捲き上げる、弛み掛つた所を捲き上げることがパルタイターグの主たる目的になつて居るのであります。も一つ今回のパルタイターグには各國の大使公使が招待を受けて參列したのでありました。唯ソヴイエツト露西亞だけは勿論參りませぬし、招待も致さなかつたのでありましようが、英吉利、佛蘭西も皆參りまして、此パルタイターグなるものは漸次一種の國際的な色を持つて來て居る譯であります、のみならず葡萄牙であるとか或は伊太利と云ふやうな所の代表者は澤山參列を致しまして、一種の防共運動の相談所にもなつて行くやに思はれるのであります。パルタイターグに參りました伊太利や葡萄牙の防共主義の諸君にも私は會つたのでありますが、彼等は日本が日獨防共協定を結んだと云ふことに付て、非常な讃辭を呈して呉れて、殊に支那問題が起つて以來、ソヴイエツト露西亞が其裏で色々なことをして居ると云ふことは、彼等の方が寧ろ私共より能く知つて居るので、どうしても防共的な大運動に這入つて、世界の人道問題を解決しなければならぬと云ふ意氣込であつたのであります。多くそれらの人は三十から三十五六の若々しいリーダーでありまして、而も重要なる地位を持つて居ることは、日本の官吏などと比べまして非常に違ふのであります、通觀致しまして、獨逸のヒツトラー氏は明

治二十二年生れでありますが、其外の人は皆三十前後、中には年寄の人もありますが、生氣潑溂としてゐて、如何にも仕事が早いのであります。是は一つは組織の力であると思ふのでありますが、主管の主任の所に行けば大概即決して呉れて實に仕事が手早い。主任の仕事の範圍でなければ、それは相手にしないので融通が利かぬやうに云ふ人があるかも知れませぬが、私共は其きびきびした仕事ぶりには實に一驚致したのであります。日本でも色々統制經濟其他で官吏が大きな役割を今日演じようとして居りますが、私が官吏諸君に要求するのは、獨逸の官吏と云ふものは私の友人などでも四年前にはコムミユニストと戰つて、身體に刀傷のある人が澤山あります、又自分のやつて居る政治が若しも弛みが來るならば、此獨逸再興の望は失敗に終るかも知れないと云ふので非常な精進ぶりであります。之を日本などに比べますれば、我々國民として又考へなければなりませぬのは、今の官吏諸君はさう云ふ試練を經て居ないのみならず、歪曲された政治に色々ひどく押潰されて居た關係から、どうも氣魄が足らず、又左顧右眄が甚だしいように思はれます。國に於きましては、私は何よりも官吏が本氣にならなければならぬ、どうも學校を出て文官試驗を通つて、極く平穩裡に高級の役人になつたと云ふやうな人のサイコロジー其儘を持つて

來ても、日本の來るべき大改造、大問題を處理することには足りないと思ふのでありまして、此點はお互ひ日本國民としまして、一つ考へて間違ひないやうに致したいと思ふのであります。さう云ふ譯で此ニュルンベルグの大會と云ふものは、單なる國内だけでなくして、ナショナリズムの大本山にさせようとして居る、又他の同情ある國もそれに協力して居るのであります。而して會場の如きも盛に建築を致して居りまして、やがて大建築の大集團地になるのでありましよう。色々まだ外に申上げたいこともありますが、大體豫定の御話を致したと存じますので、之を以ちまして終りに致します、大變御清聽を煩はしまして有難うございました。

上海の將來

昭和十二年十二月二日經濟倶樂部臨時午餐會に於て

内山完造君

唯今は大變な御紹介を戴きましたが、大して私は專門に研究して居る譯でもございませぬし、唯商賣の關係上、幾分支那人が出入して呉れるのが多いので、習慣などに付て少しばかり分つて居ると云ふやうな譯ですが、併し支那人と云ふものは、非常に複雜な生活をして居りますので、私共の簡單な頭で見ます時に、どうしても一部分しか目に映つて來ない、其僅かな一部分を捉まへて、さうして全體に敎めると云ふやうな點が非常に多いのであります。私も實は其點を除いて出來るだけ支那の全體的方面が見たいと思つて居りましたのですが、どうしましても自分の頭が足りないのと同時に、知ることが出來ない程の複雜性を支那は持つて居ります。例へば能く云は

れますやうに、支那は儒教の國であるから、支那人の生活は儒教であらうと云はれるのが、大體日本の皆様方の常識になつて居ると思ひますが、支那人の中でも亦、支那は儒教の國であると云ふことを云ふ人もあります。併し又日本の中にもいやさうではない、支那は儒教でなしに道教だ、あの支那人の生活は道教らしいと云ふ方もある、かと思ひますと又、いやさうぢやない、支那人と云ふものは非常に賭博が好きだ、何でも彼でも博奕的にやる、だから彼奴の生活ははつたり屋だと云ふ人もある、さうかと云ひますと、いやさうぢやない、どうも支那人と云ふ奴は今首を斬られると云ふ時にも、自分の懐ろから財布を落すと手を出して財布を拾ふと云ふやうな奴で、彼奴は金一點張りの人間だ、斯う云はれる、さうかと思ふと、いや〳〵さうではない、支那人と云ふものは何でも彼でも金儲けで、金が出來たら出來るだけ脂つ濃いものを食つて、さうして出來るだけ美人の妻君を五人でも七人でも持つて、一年中を年から年中享樂的に生活するのだ、だから支那人の生活は寧ろ享樂主義だ、斯う云ふ工合に云はれる、さうかと思ふと、いやさうではない、支那と云ふものはぴんからきり迄八卦と云ふものをやつて居る、支那で八卦があれだけ發達して居ると云ふことは、要するに迷信の人間だ、斯う云はれる、さう云ふことを色々擧げますと、

實は非常に澤山あつちからもこつちからも、いや利己主義だ、個人主義だ、社會主義だと云はれるのでありますが、私が今日迄つき合つて來ました支那人の間で考へて見ますと、其何れでもないやうに思へるのであります。併し又其何れでもないやうだが何れでも又あるやうに思へる、どれを考へて見ても其一色で生活して居ると云ふやうにはどうしても見えないけれども、支那人の生活と云ふものを見て、其中から引出すと何でも出て來る、儒教も出て來る、道教も出て來る、個人主義も出て來る、利己主義も出て來る、社會主義も出て來る、迷信も出て來る、はつたり屋も出て來る、何でも恐らく支那人の生活の中に、實際の生活の中から引張り出すと出て來ないものはない程私は持つて居ると思ふ、それは私共が知つて居るだけでなしに、知つて居る範圍内だけでなく、知らないもの迄も澤山に持つて居ると思ひます。支那人の生活を私共が左様に端的に決めると云ふことが、抑々日本人の頭で考へて居るんぢやないかと思ひます。支那人も能くやりますし、日本の方も能く仰しやるのですが、支那人が能くやりますことは孔子の廟を立派に仕上げることがある、さうすると、それを見た人は、日本人の方などが御覽になりますと、あの通りに立派に孔子の廟が到る所に大きな孔子の廟がある、どうしても支那人と云ふものは孔子的であ

ると仰しやるのですが、建てた家を見ると、田舎のこんな所と思ふやうな所に孔子の廟が建てゝあるが、それは家があると云ふだけで、孔子廟、文廟、夫子廟と云ふ名前の付て居る大きな樓閣があると云ふだけで、中には何處にも孔子様の像や畫像を祀つて居ると云ふ所は一つもないのであります。さうしてそれを造つたのは一體誰が造つたかと云ひますと、それは必ず政治家に決つて居る、政治家以外の人が、未だ曾つて孔子廟を修繕したり、新築した人は殆どないのであります。現在如何にも支那が變化しつゝある、躍進しつゝあると云はれて居る今日、矢張り孔子廟を修繕するのは政治家の手である。政治家以外の人は決して孔子の廟の修繕などはしない、さう考へて見ますと、孔子様と支那の政治家との關係は深いやうに思ひますが、孔子様の廟に依つて、支那の一般の人間が一體どの位孔子様と云ふものを知つて居るかと云ふことになりますと、孔子様の恐らく繪像などと云ふものを見たこともない人間が、支那では大部分だと思ひます。事に依ると日本人の方が、孔子様の御姿を能く知つて居るのではないかと思ひます。私今政治家と一般の人間と云ふことを申上げましたが、其一般の人間と云ひますのは、士農工商です。一般の人間と申しますのは士農工商を指して居る、士の字がちよつとこだはりになりますが、日本では侍と

云ふやうに譯しますが、あれは支那では讀書人と云ふことで、侍ではない、軍人ではない、今日の言葉で申しますれば讀書人と云ふことです。要するに知識階級と云ふことであります。農工商は別に其通りで變りはありませぬが、さうした知識階級と農工商を入れた一般の人間と申して居ります。政治家と軍人と坊さん、此三種の生活者は決して一般人の中に入れない、無論政治家も軍人も坊さんも一般の人間の間から出て來るのですが、一般の人間の間に居る間は一般の人間と同じやうな生活をして居るけれども、一度政治家になり、軍人になり、坊さんになりますと、此人々の生活が全く掌を返すやうに變る、私が知つて居ります支那人の間で、ぢつと見て居りますと、彼等が學生々活をしたり、商賣人として生活して居ります間の生活を、ぢつと見て居りますと、其人間がどうかした場合に軍人になつたり、或は政治家になつたりしました時に、それを見ますと全く生活が違ふ、ころつと掌を返すやうに生活が違つて來る、一度政治家になり軍人になつた者が失脚した場合に、下野した場合にはどうするかと云ふと、一般の生活の中には歸つて來られない、どう云ふ譯だか歸つて來ることが出來ない、其時は必ず坊さんになる、坊さんになるのではなくして佛教研究家になる、皆さんが御承知の人間で申しますと、此間殺されました孫傳

芳、此間上海で死にました段祺瑞、今北京に居ります吳佩孚、あゝ云ふやうな人は皆失脚すると同時に、何々居士と云つて佛教研究に隱れてしまふ、昨年亡くなりました魯迅氏が、私に書いて吳れた一つの詩があるのですが、其中に文句ははつきり憶えて居りませぬが、支那人の生活を書いて、一度顏が大きくなれば、斬る所の頭が愈々多し、顏が大きくなれば、高い位置になれば、政治家になり軍人になつて、高い位置に上ると、人間の首を自分の嫌ひな奴を、是は必ずしも公的でなしに私的、個人的の自分の相手でもずばり〳〵斬つて行く、それには遠慮なしに公の名前を付けて斬つて行く習慣がある、どん〴〵斬つて行く、顏が大きくなれば斬る所の頭愈々多し、下野すれば忽ち南無阿彌陀佛と書いてある、實に支那人の政治界、軍人の中に生活する人の生活振りをはつきり諷刺して居る、さう云ふ工合でありますので、私は實は商賣人として立つて居りますし、最も頭の足らぬ人間ですから、政治家及び軍人或は坊さん達の、其變つた生活の中のことは一切私はタッチしないやうにして居ります。出來るだけ一般の人間の間の、色々支那人の生活を考へて居ります中に、どうしても一般の人間の間に普遍して居る現象でなければならぬ、もう一つはそれが今日の支那人の生活に必ず生きて働いて居なければいけない、さう云ふことを考

へまして、珍しいことを探し歩かなければ分らぬやうなことは一切取上げて居りませぬ。從つて御話する材料が非常に人間の社會的位置の低い方面の或は話になりますが、それだけ豫め御諒承を願ひたいと思ひます。

私共が支那人を見ます時に、一つ考へて戴きたいと思ひますことは文字の關係のことです。私共の使つて居ります此同文と云はれる文字が、實は大分意味が違ふ、其違ふ關係が、日本に入つて來ました文字は學問としての漢字が日本へ渡つて參りました。支那人が文字を作り出した時には、生活の符號として作り出した筈であります。生活の符號として作り出した文字が、日本へ渡ります時に學問として渡つた、茲に支那人と日本人とが同じ文字を使ひながら、其内容が非常に違つたものが出來たやうに思ふのであります。手つ取り早いことでありますが、此天井ですが、天の井と書きまして我々は天井と云つて居ります。天井と云ふ字を字引で引いて見ますと、必ず天井と云ふ字の解釋は所謂此天井を指して居ります。併し考へて見ますと、天の井が此處にあつたと云ふことである、若し此文字が符號として出來て居るなら、天の井と云ふものを指して居らなければならぬ筈であります。所が日本で使つて居るのは天井と云ふ字は天の井を指して居ない、

此處を指して居る、所謂天井を指して居る、それで是は私をかしいと思つて實は考へて居りますと、全く日本と違つて居る、支那の天井と申しますのは、天の井と申しますのは全く天の井であります。それは御承知のやうに支那は水が惡い、飲料水が非常に惡い、揚子江の水でも、黄河の水でも御承知のやうに丸つきり、味噌汁の濃いやうな奴が流れて居る、それを漉して飲むのには明礬を使ふ、明礬水を始終飲んで居りますと何だか知らぬが此處が痙くなる、ぷつと腫れて二、三日經つと潰れていつの間にか消えて行く、さうかと思ふと斯う云ふ所にぷつと出來る、外に出るのは宜いのですけれども、時に依ると咽喉の内側に出來る、さうすると食事が出來ないし、終ひには息が止まるやうなことが出來て來る、併し大體に於て命を取ると云ふことはありませぬけれども、それは專ら明礬の中毒らしい、近頃は大きな町では水道が出來て居りますが、依然として田舍に參りますと、極く少數の都會を除いては矢張り此河の水を澄まして飲むか、それでなければ井を掘ります。併し井も非常に良い水が出るのは少い、御承知のやうに皆さんが御遊びに御出でになつたでせうが浙江省の杭州、あれだけの大きな所で飲水になるやうな井は數へる程しかない、實に僅かしかない、山の上の寺になりますと、山の湧水があるし、非常に良い水がありま

すが、それ以外には何をやつて居るかと云ふと大概雨水を飲む、私初めてあつちに參りました時に、酒の産地の紹興と云ふ所に參りました。其處で宿に泊りましたが、初めての宿で私は支那語が分らず、何にも分らずにやつて來た、汚い話ですがはゞかりに行きまして手を洗はうとしたが洗ふ水がない、其處ら中探して見ても何處にも水がない、それから庭の隅に斯う云ふ大きな丸い竹で編んだ蓋がしてある、開けて見ると水が一杯入つて居る、是で洗つてやれと思つてじやぶじやぶ手を中に入れて洗ふと、ボーイが飛んで來て、そんな所で手を洗つては大變だ、どう云ふ譯か、兎に角手で向ふははねのけるだけ、いかぬと云ふ、どうしていかぬかと云ふことを書いて聞いて見ると、さうするとあれは飲水だと云ふ、其處でもう一遍見ると、中に子子が一杯居る、子子が一杯湧いて居る水を、之を飲水と云ふのは怪しからぬと思つて、我々が飲まされるのは之を飲まされるのかと思つたが、本當にそれを飲まされるのですが、唯解釋が違ふ、日本人ですと云ふと、子子が湧いて居るやうな水は、そんな腐つた水を飲むことは危險だと云ふが、今日の醫學の方面からはさうらしい、併し支那人の考へ方では子子のやうなものでさへも生きることが出來る水ならば毒がない、それなら安全だと云つて飲む、斯う云ふ所に何でもないが、兎に角非常な

違ひがある。其水の甕の置いてある所が天井です。と云ふのは其處には四方から屋根を葺下しまして眞中に四角の穴が開いて居る、其下が庭になつて居つて四隅に樋があつて、樋の下に大きな壺が置いてある、雨が降つて水が一杯に入るとそれを蓋をして保存する、天の水を取るから天の井と書く譯で、水も何にもない斯うした所を天井と云ふのは大乘的な解釋であらうと思ふのです、支那人の云ふ天の井と云ふものは全く天から水を取る天の井だから天井と書くのであります。

それから皆さんが毎日御召上りになる茶碗、あの茶碗と云ふ文字が、若し生活の符號であるとしたならば、茶碗で飯を食ふと云ふことはない筈です。飯を食ふのは飯碗でなければならぬと思ふ。併し矢張り大乘的な解釋をして茶碗で飯を食つて居ることになつて居る、さうすると日本には飯碗と云ふものはないと云ふことになるが、支那でははつきり飯碗と茶碗とは分れて居る、日本で現在使つて居りますあの茶碗は矢張り茶碗であります。茶碗に違ひない、併し其茶碗は飯を食ふものではなくして御茶を飲むものであります。御承知でもありませうが、蓋を取りまして身の方に御茶の葉を入れて熱い湯を入れて茶碗に蓋をする、御茶の葉が出ないやうに蓋でこして飲む譯です。それが正に本名の茶碗に違ひない、茶碗で飯を食ひながら矢張り茶碗と云つて居るのはどうもをかしい、本當に生活の符號であるならば、飯を食つて居る以上は飯碗でなければならぬが、誰も訂正して呉れないから已むを得ませぬが、茶碗と云ふものが飯碗になつて、飯碗と云ふものが殆ど日本にはなくなつて居る、時々塗物の御椀でありますが、飯椀と云ふやうなものがあるらしいですが、瀬戸物の方では飯碗と云ふものはない。

何でもないことですが申上げますと、もう一つ非常に變つて居る奴を申上げますと、假契約とか假調印とかと云ふ假と云ふ字です。私共の間では假と云ふ字は假にと云ふことです。本契約をする迄の假契約に使ふ、併し其假契約と云ふ字を若し支那人と何か交渉が出來上つたことに對して、宜しい、假契約をしようと云ふ相談が出來上つた時に、さう云ふものを持つて行つて之に判を捺せと云つても、いけないと云ふ、なぜいけないと云ふかと云ふと、日本では假ですが、支那ではあの假と云ふ字はあれは仮と云ふことで贋と云ふことであります。贋となると贋契約には調印は出來ないですから支那人はしない、相當文字の違ひが非常に多いのであります。

本當に支那の文字の内容を知らうとしますと、どうしても是は支那人の生活と云ふものに觸れないと、本當に文字の意味がはつきりして來ないと思ひます。我々が使つて居ります文字は千何百

年か前に支那から舶來して、それがどん〳〵皆さんの間に擴がつた譯ですが、擴がる間に漢學の先生が澤山出來て來て、さうして此一つの符號に出來たものに色々な解釋を付けた、金冠を着せたり直垂を着せたり、漢字と云ふものを難かしいものにした、私共の頭の中に假名で書かれたものは意味が深くなく、漢字で書かれたものは何となく重々しいと云ふ感じを與へたのは、要するに生活の符號であるべき文字を學問として受入れた、是が一つの弊害であらうと思ふのであります。其弊害が何處迄來たかと申しますと、喧嘩と云ふ文字がありますが、是は支那では殆ど今日では言葉に使つて居りませぬ。文章の中には使ひますが、言葉には使はない、此喧嘩と云ふ文字は、一體內容はどんなものかと日本で申しますれば、口喧嘩から毆り合ひ、半殺し等と人殺し迄がすつくり喧嘩の中に入つて居る、喧嘩は初から終ひ迄關聯を持つて居る、併し支那に於てはそれは持たない、日本で今日喧嘩と云ふ文字の內容は少くとも四段に分れる、場面が四つに分れる、喧嘩と云ふ文字は今日支那の言葉で申しますと、北京語で申しますと(吵鬧)、上海語で申しますとワラワラ(哇羅々々)、此哇羅々々とは一體どんな內容を持つかと云ひますと、譯もなしに井戸端會議或は子供が遊んで居て譯もなしにわい〳〵聲を立てゝ居るのを哇羅々々と云ふ、時に車挽き

とお客さんと爭をして居る、或は車挽き同志爭をやつて居る、初の中は哇羅々々と云ふ、哇羅々々の時代には意味がない時とある時とがある、例へば車に乘つてお客さんが來ます。車から下りると車挽きに車賃をやる、車挽きがもうちつと吳れと云ふ、いやそれで宜い、もうちつと吳れ、それで宜いと押合ひをして居るのが矢張り哇羅々々の中に入る、もう少し吳れ、それで宜いと押合つて居る間は哇羅々々である、併し支那人はなか〳〵日本人のやうに氣が短かくない、ですから吳れ〳〵と云つて十分でも十五分でもいつ迄も吳れ〳〵と云つて居る、さうすると日本人の方は時間は金なりですから、なか〳〵貴重な時間ですから、此野郎執拗い奴だと思ふ、と思はず馬鹿野郎と出る、馬鹿野郎と云ふことは我々は何の意味なしに出しますが、併し支那では之れがチヤン分れて居る、哇羅々々の間は兎に角僅かでも理由のあることを云つて居る、もう少し下さい、遠かつたからもつと餘計吳れろとか、いやそれで澤山だとか押合つて居る間が哇羅々々ですが、一度馬鹿野郎と云ふと、向ふの言葉ではツーロー(猪羅)と云ひますが、猪羅と云ふのは豚と云ふことです、豚と云ふことを云ふ、さうすると其處で今迄の哇羅々々の場面がすつかり消えてしまふ、哇羅々々の場面が消えてしまつて今度はシヤンマー(相罵)と云ふ場面が出て來る、相罵ると云ふ

場面が出て來る、互に惡口を云ふやうになる、是は非常に猛烈な惡口を平氣で云つて居ります。慣れてしまふと何でもない、説明の出來ないやうな酷いことを云ふ、猪羅と云ふと大概それに返す言葉はウエードンと云ふ(飯桶)と書く、詰り喰ひ拔けと云ふ意味です。片つ方が豚と云へば片つ方が喰ひ拔けと云ふ、其處で丁度相罵り合ひになつてしまふ、前の場がすつかり消えてしまふ、どつちが勝つか之を裁判しますと、先に猪羅と惡口を云つた方が負けになる、哇羅々々の時には假令少し正しい立場に居つた人でも其人が猪羅と云ふ一口を先に出すと其裁判は必ず其猪羅と先に云つた方が負けになる、それで此相罵、詰り惡口を云ひ合つて居る間には支那人は例の身振りで盛に相手を威嚇する、見て居りますと、相手の鼻の下迄腕を突き出しますが決して叩かない、又ぶち當らない、ぶち當らないやうに突き出して來る、盛に之をやつて威嚇する、それが當ると、又場面が變るから當らないやうにやらないといけない、どうしても當らないやうにやらぬといけない、ちよつと手を握つて見ましても分りますが、日本人は斯う握るが、支那人は斯う握る、數を數へる時でも日本人は親指から數へるが、支那人は小指から數へる、喧嘩の時でも、日本人は上から毆るが、支那人は下から突き上げる、さう云ふ風に習慣が非常に違ふ、朝タオルを使ふ時

でも日本人は上下の方に斯うやつて使ふが、支那人は斯うやつて顏を動かして顏を洗つて居る、手拭を絞る時に日本人は斯う絞るが、支那人は斯う絞る、全く反對、さうした反對なことをやります。其反對なことを申すと實に澤山ある、是は後で裏表の所でちよつと觸れて見たいと思つて居ります。其威嚇し合つて居る時に盛に兩方で威嚇して居りますが、どつちか一つぽんと當ると、日本人ならばぽんとやられると、何此野郎と云ふので直ぐに返して來るが、支那人はぽんと一つやられると返さない、返ないで自分の身體を突き付けて來る、毆るともつと毆れと云つて身體を突き付けて來る、さうするとをかしなことですが、其身體を突き付けると云ふことはどう云ふことかと云ふと、支那では弱い者が勝つと云ふ理窟がある、はつきり弱い者が勝つと云ふ理窟がある、毆ると云ふと、一つぽんと毆ると今迄の相罵と云ふ場面がすつかり變つてしまつて、今度は北京の方面ではターチャー(打架)と云ふのですが、上海ではタンシャンタン、打相打と書きます。毆ることに依つて打相打と云ふ場面になる、此場面になると文句はない、前にどんな理窟があつても、先に毆つた方が惡い、どうしても先に毆つた方が文句なしに惡い、人殺しでも文句なしに殺した方が惡い、殺された方が宜いと云ふことになる、此間の大山大尉事件などもあれを若し一

般の支那人の間へ行つて、日本人の海軍大尉の大山と云ふ人が殺された、殺した人間が悪いか、殺された人間が悪いか、どつちが悪いと聞くと必ず殺した方が悪いと云ふ、一口です。解決は早い、併し上海市政府とか、政治家になるとそれに文句が付て來る、詰り一般の生活の中では今申上げたやうに哇羅々々、相罵、打相打、それからサアニン、詰り殺人です、人殺しと云ふやうに段々分れる、それ〴〵區切りがあつて分れて居るに拘らず、一度是が政治界の人に云はせると、あれはあの際行くべからざる所に行つたからいかぬとか、何とか彼とか理窟を付ける、是は一般人の生活と政治界の人の生活がはつきり分れて居る證據になる、此間の事件などは明かに殺した人間が悪いと云ふことを一般の支那人は云ひます。日本人が一つの文字の喧嘩と云ふ中に含めてしまふものが、はつきりと支那では四つの段階に分れる、どうしても支那人のやり方に付ては、さう云ふことを考へて見る必要があると思ふ。

落ちると云ふことゝ盗むと云ふことの二つにも見解がある、紡績會社に落綿と云ふものがある、落綿と云ふのはなぜ落綿と云ふかと云ふと、落綿と云ふのは紡績會社で絲を挽いたり、あつちこつち油を拭いた綿と云ふものには違ひないのですが、それをなぜ落綿と云ふかと云ふと、あれは

其處らに落して居るから落綿と云ふのではない、あの落綿と云ふのは全く盗むと云ふ意味でなしにロー、詰り落と云ふ字を書く言葉の落綿であります。是は一口に申しますと役得です。紡績工場の綿繰り工場に居る職工が其處らにある綿を少しづつ持つて歸る、之を落綿と云ふのであります。それは持つて歸つても支那では差支へない、例へば績いで居る工場では其絲を少し持つて歸る、それは構はない、又織布工場の者が布切を少し持つて歸る、之も構はない、ローソウ(落紗)と云つて構はない、布切の方はロープ(落布)と云ふ、仕立屋に布切を出して仕立物をさせる、ちやんと仕立てゝ持つて來る、殘つた布切を仕立屋が取る、それは矢張り落布であります。それから私共の店に使つて居る子供を何か買ひにやる、八錢で買つて來たものを九錢だと云つて一錢上前を取る、之をロードンデイ(落銅錢)と云ひますが、上前をはねる、詰りさうして自分の關係して居る仕事の中から少しづゝ取ることを之を落ちると云ふ、盗むとは云はない、是が、問題が能く紡績會社などで起ります一つの原因ですが、盗むと云ふ方は偷と云ふ字を書く、是ははつきりと自分の關係して居る仕事以外のもの、例へば綿繰り工場に居る者が布切を盗んで來ると云ふことになると是は盗みになる、それから織布工場に居る者が机の上にあつた鉛筆を一本失敬しても

是は盗み、盗みと落ちるの差は自分が關係して居る仕事の上前をはねるか、或は關係以外のものをちよつと失敬するかと云ふ違ひであります。落ちると云ふ方は會社なら會社に居つて會社の用箋、狀袋を使つて自分の個人の用事に使ふ、あゝ云ふのと同じことです。別に支那人に取つては不思議はない、さう云ふ工合になつて居りますので、紡績會社などで澤山の女工が出る時に綿を持つて居る、それを門衛が見付けて盗棒だ、綿を盗んで來たと云ふと、已れは盗んだのぢやないと云ふ、それでは其綿は何處から持つて來たのかと云ふと、工場から持つて來たと答へる、それ見ろ、工場の綿だ、貴樣盗んだのぢやないか、綿を盗まぬと云つて此奴强情な奴だ、ぱんとやるやられた方は呆氣に取られて何が何だかさつぱり分らない、譯も分らずに毆られて居る、門衛の方は一廉分つた積りで工場の綿を職工が持つて歸ることは盗んだのに違ひない、それを現に自分で持つて來たと云ひながら盗まぬと云ふ、此野郎圖太い野郎だと云つてぽんとやる、是が原因になつてストライキを起すやうなことがある、分つて見れば何でもないが、日本人の工場では落綿してはいけないのだ、落綿は日本では盗棒と同じことだと云へばすつかり分る、それを容赦なしに日本人の頭で此綿を盗んで來たのだと云つてぽんとやると其處が問題になる、何でもないことですが、さう云ふ所に矢張り支那人の心理を考へて見る必要があると思ふ。

さうしたやうに文字なんかの差でも日本人の考へますのと支那人の考へますのとは非常に開きがある、其開きがどの位あるかと申しますと、丁度里數で考へて見ますと一番能く分るのであります。日本の里數で一里と云ふと文字は同じ一里と書くが、我國の頭に來る一里は三十六町が一里、所が支那人の頭に來る一里は六町が一里、其間に三十町の差がある、是が支那人と日本人との間の學問的に響いた漢字の内容と、生活の符號として使はれた支那の漢字との差だと思ふ、私は漢字六分の一説と云ふのを申しますが、要するに日本人が支那の新聞とか雜誌、さう云ふものを讀んで解釋する時にそれを六で割つて、其六分の一が本當の支那人の頭だと見て戴けば大して間違ひはないと思ふ、それは私自分が實際にやつて見てどうも大して間違ひがない、所がどうも日本は、支那が非常にごた〳〵するのも惡いが、少し日本人の方が考へ過ぎぢやないかと思ふ、餘り難かしく考へ過ぎる、支那から歸つて來ましたお醫者さんにおつき合ひになると直ぐ分りますが、大きな額に絶大妙手と云ふやうな文句が書いてある、それを何々國手に送ると書いて自分の名前が書いてある、それを大概の日本人の醫者は立派な額にして居るが、さうして日本に歸つ

て來て、立派な國手だと思つておさまつて居られる、併し此絶大妙手と云ふ文字は、支那人の頭で云へば數より少し上手なお醫者さんと云ふことで深い意味はないので、何處へ行つても書いて呉れる文字です。さう云ふものを餘りに日本人は自分の頭で勝手に難かしく解釋しちやつて、已れは絶大妙手だ、そんなことを考へたらをかしいけれども、どうも永い間の習慣が斯う云ふことになつて居るのです。實は支那語を教へる先生もさう云ふことは餘り教へて呉れない、其處で已むを得ず日本人は支那のことを非常に難かしく考へる、大體世界中で日本人が支那の研究には一番有利な位置にある、それは申す迄もなく同文ですから一番便利な位置に居るに拘らず、支那の研究が間違が多いと云ふことは、要するに其文字の考へ方が非常に邪魔をして居ると思ふのであります。

それから支那人は實に面白い習慣を持つて居ります。街を歩いて居ります時に、上海に御出でになつた方は、あゝさうだと云ふことを御氣付きになるでせうが、歩いて居りますと、車挽きが勸めに來る、ヨウバ〳〵(要罷々々要る)かと云つて勸めに來る、其時に日本人は乘るなら屹度默つて乘る、或は賃銀の應待をする、所が要らぬ時には日本人は必ずプヨ(不要)とか、要らないと

云ふ言葉を出してはねのける、不要々々と云ひますと、支那の車挽きは一層詰めかけて來る、初め一臺より居らぬのに不要などゝ云ひますと澤山の車が、要罷々々と云つて突き付けて來る、之を見て居ると實に癪に觸る、而もさう云ふ時に、初は要罷々々と云つて來たのに不要と云ふと今度來たのはトンヤンニン(東洋人)要罷々々と云つて來る、トンヤンニンと云ふのは日本人と云ふことですが、盛に詰めかけて來る、其時にちよつと氣の短かい方は斯う云ふことが浮ぶ、矢張り排日だ、トンヤンニンと云ふ、屹度排日に違ひない、こんな奴に乘つたらどんなことになるか分らない、こんな氣分が起つて來る、要罷々々となか〳〵執拗くやつて來る、不要と云へば云ふ程、要罷々々とやつて來るので、馬鹿にして居ると思ふ、所がそれは考へ方が違つて居るので、支那人が歩いて居るのを見ると、支那人は車挽きが要罷々々と行く、さうすると要る時には何か云つて應待して居るが、要らぬ時には見向きもしないで知らぬ顏をして行つてしまふ、實に平々坦々として小面憎い程相手にならない、私共見て居ると、何て支那人は情のない奴だと思ふ程で、又車挽きの方も諦めて歸つて來てしまふ、其處で私共が考へさせられるのは、關係と無關係と云ふことです。不要々々と云へば何か知らぬけれども其處に關係が付いた、さうなると一生懸命になつ

て是はどうしても乘せなければいけない、支那人のやうに、何にも云はずに默つて行けば無關係である。無關係のものは仕樣がない、さうなると車挽きはすつと歸つてしまふ、是が實はあらゆる所に見えるので、能く支那人が新聞や雜誌に出鱈目を書く、出鱈目を書くと屹度それが日本人に關係のあることだと日本人から辯解なさる、辯解すると云ふことは要するに不要と云つたことです。關係が付いたことだと云ふので又續いて第二の出鱈目が來る、又出鱈目を書くのでもう一遍辯解を書くと、そら來たと云ふので又もう一遍出鱈目を書く、出鱈目で日本人を釣り出して、日本人が辯解すればする程向ふが出鱈目を書く、是で勝負は負けです。向ふは出鱈目を考へて幾らでも製造が出來る、事實はさうあるものぢやない、だから餘り辯解をして居ると終ひに辯解が出來なくなつてしまふ、日本の行き方はどうも辯解ばかりのやうな氣がします。もう少し支那人を呑み込んで無關係の狀態に立つ必要がある。昨年丁度魯迅さんが死にましたのが、十二月でありますが、一月から十月迄の間、上海で出ます小報と云ふ小形の新聞が澤山あります。それに魯迅さんと私のことを出鱈目を書いたことが五六回ありました。浪人內山完造の內容を暴露すとか、或は北四川路〇〇書店を暴露すと云ふやうな大きな見出しで書く、讀むと實に出鱈目が書いてあ

る、私が金持になつて見たり、最も大きな出鱈目は、彼奴は日本政府のスパイだ、彼奴の收入は一箇月五十萬圓だ、だから幾らでもあれは金が出て來る、あれの店に出入する支那人は皆其手先になつて居る、傳書鳩だ、傳書鳩は一箇月に皆六百圓、七百圓の收入がある、と云ふやうな出鱈目を書きました。えらい出鱈目を書くなと思つて放つて置くと、四五日すると支那人が其新聞を持つて來て、此間から小報にこんなことが書いて居る、何とか書いてやれと云ふから私は、新聞屋と云ふものは褒めたりくさしたりするのがあれの商賣だ、どつちにしても內山書店と書いてあれば己れの所の廣告だから放つて置けと云ふと、もうそれつきり出て來ない、實は其新聞を持つて來た奴が自分が書いた奴だ、自分で書いて釣り出さうとしたが出て來ぬから親切さうに持つて來てもう一遍釣り出しに來る、それを私の方で大概もう狡くなつて居るから相手にならずに放つて置く、放つて置くと又五回も六回も來るが、どうしても相手にならぬと結局消えてしまふ、さう云ふ工合に呑み込んでしまふと云ふこと、無關係で消してしまふと云ふことが必要だと思ふ。日本人のやり方はどうも辯解をしなくちや氣が濟まぬらしい、もう少し狡くなつて出鱈目を書いてもうつちやつて置く、出鱈目は呑み込んでしまふ、實は斯う云ふ話をしますと、外交などに關

係の方は、出鱈目でも新聞に書いたものを默つて置けば、それは承認したことになる、斯う仰つしやる、併しそれは西洋流ではさうかも知れない、併し相手が支那人の場合には一向構はない、相手の流儀を考へてこつちも向つた方が勝らしい、支那人は默つて居つたら承認したことにはならない、默つて居れば無關係で、是は駄目だと云ふことになる、ものを云つたらそれ見ろ、矢張り關係が出來たと云ふことになる、さう云ふことを知れば無關係にして置かなければ損です。

支那の財政とか經濟と云ふものを、新聞や雜誌で能く評論される時に、中には數字を擧げて御書きになる方がありますが、數字に載らぬものが一つある、それは斯う云ふことです。支那の銀行へ預金をして置きます。さうして假に五萬圓なら五萬圓預金した人が五萬圓取りに行く、取りに行くと銀行では金がないことがある、さうすると、あなた今日五萬圓要るさうですが銀行に金がありませぬから一萬圓持つて歸つて下さい、明日又一萬圓、明後日又一萬圓、一萬圓毎日取りに來て下さいと云ふやうなことがカウンターで應待が出來る、斯う云ふ銀行が一體世界中にあるか無いか、日本でそんなことをしたら其銀行はどうなるでせうか、支那人はそれがカウンターで平氣に出來る、と云ふことは支那人の頭に斯う云ふことを考へて居る、銀行も商賣人であるから、

金のある時も無い時もある、何でもちやんと取引關係で考へる、先年支那の銀行が公債が暴落して資本金の三分の二缺損をしたことがある、さうしますと其ことが解りました日に、日本の銀行も、西洋の銀行も全部支那銀行の紙幣は一切受入れないと云ふことを云はれた、それは銀行としては成程自分の方が損が立つのだから受入れないと仰つしやることは無理もないが、我々商賣人は何日でも大なり小なり現金を持つて居る、私共は皆損しなければならぬが、さう云ふことはちつとも構はない、いきなり銀行の方で今日から支那の紙幣は扱はないとぽんと蹴られてしまふ、是は近代式のやり方であらうと思ふのですが、支那の銀行ではそれがさう云ふ工合に行かない、銀行が公債で資本金の三分の二を損したと云ふ場合に、日本や外國の銀行が其銀行の札を受入れないと云ふ場合に斯う云ふ實例がある、私の家の丁稚などが貯金會を拵へて、其金を支那の銀行に預けて置いた、其際に支那の銀行の札は駄目だと云はれたので、私は店の小僧を捉まへて、支那の銀行の札は駄目だと云ふ、今日から日本の銀行で其札を受取らないから、お前等は貯金を銀貨で引出して來て日本の銀行に預けるか、西洋の銀行に預けないと駄目だと云つた所が、私の所に十三の年に來て今三十一になつて居りますけれども、何にも勉強したことのない男ですが、そ

れが云ふのに、大丈夫です、放つて置いたら宜い、放つて置いたら潰れてしまふがどうするかと云ふと、大丈夫です、公債と云ふものは騰つたり下つたりするでせう。騰つたり下つたりするが、暴落しては困るぢやないかと云ふと、騰つたり下つたりするのだから、銀行だつて儲ける時も損する時もある、損をした時に取りに行つたら誰でも潰れてしまふ、儲かつた時に取りに行けば宜いから放つて置いて宜いと云つて出しに行かない、それが私の所で丁稚小僧だけが特別にさうなら何にもそれは例にならぬけれども、全體的に支那人の頭は皆さうです。ですから銀行が三分の二損した、西洋の銀行や日本の銀行は全部支那の銀行の信用を認めないで、札は今日限り取扱はないと云つて居る時に、支那人は其銀行を取付けないから其時に銀行は一つも潰れない、一軒も銀行が潰れたのはない、特に支那の銀行で能く潰れますのは大概政治關係の銀行で、政治に無關係な實際の商賣だけの銀行はなか〳〵潰れない、それは今のやうに預金を取りに行つても金がない時には分割拂が出來ると云ふ數字に載らないものがある。銀行が損した、潰れさうだと云つて西洋人や日本人が其紙幣を受入れないと云ふことを云つても、支那人は平氣で又儲けた時に行つたら宜いと云ふ動きが、全體的に動いて居る爲に數字で表すことが出來ない强さを銀行が持つて

居る、モラトリアムなどをやります場合にも實に簡單に出來る、靴屋なら靴屋の小賣屋が、今度はどうも景氣が惡くて金融が惡くて拂が出來ないと云ふ時には、小賣屋の組合が寄合ひをする、向ふは五月の五日と八月十五日と年末とが節季で、舊曆ですが、其時が決濟期であります。必ず其決濟期には決算をしなければならぬ。五月五日の日にどうしても今度は金の廻りが惡いので、工合が惡いと云ふことになりますと、寄合ひをしまして、どうしようか、さあどうしたら宜いだらうか、一期延ばさうぢやないか、さうしよう、さうすると今度は卸屋さんの方にも組合が出來て居るが、其處にどうも金融の工合が惡いから一期計算を延ばすと云ふことを云つてやる、さうか、己れの方も金融が惡いから相談をしようと云ふことで相談をして、之も亦一期延ばさうと云ふやうなことになる、さうすると今度卸屋の方から製造家の方にさう云つて行く、製造家の方も亦組合の寄合ひを開いて、一期延ばさうと云ふことを銀行の方に申込まうぢやないかと云ふ譯で、銀行の方に申込んで行く、さうすると小賣屋の方は五月の節季の決濟を八月十五日のチェックで決濟する、さうすると其チェックを貰つた卸屋さんがそれを其儘持つて行つて製造家の方に八月十五日のチェックで取つて下さいと持つて行く、こつちも宜しいと云つてそれを取る、それを又

今度は製造家の方に之を取つて下さい、あゝさうですかと云つて取る、製造家の方で今度はそれを銀行の方に持つて行く、銀行はそれを取る、それですから結局全部通じて居ると同じことです。八月十五日の手形が廻つて居るけれども唯銀行は日歩を取りさへすれば宜いので皆通じれば同じことです。現金を廻して居ると同じやうに廻つて行く、それは政府が干渉するのでも何でもない、自分等の間でちやんとやつてのける、ですから上海の市場が大破産をしなければならぬやうな場合にもなか〳〵破産しない、是は時世後れのやり方とも云はれますが、併し時世後れでも現にそれが今日行はれて、而もそれで動いて居る以上はそれを無視する譯には行かない、理窟はどうであつても、其理窟よりも現在動いて居ると云ふことを尊重しなければ仕事と云ふものは出來ないと思ふ、さうした點は一つ御研究になる場合に是非考慮に入れて戴きたいと思ふのであります。

先年幣制改革が出來ました時に、中國銀行の總裁をして居つた張公權を追出して其後に宗子文が入つた、宗子文が入ると共に銀行の中の改革をして年寄の人を皆追出してしまつた、所が一日に二千萬圓の預金引出を喰つた、二千萬圓の預金引出を喰つたので吃驚して調べて見た所、其追出された人の中に非常に老耄れた年寄の宋漢章と云ふ人があつた、所が其宋漢章が居つた爲に二

千萬圓の預金があつたのが宋漢章が追出されたと同時に其預金が引出された、宋漢章が預金をして居つたのかと云ふとさうではない、宋漢章と云ふ人は非常に確かな人で、財産家ではないけれども此人は確かな人だと云ふので其人の居る銀行ならば宜いだらうと云ふので預けて置いた、所が其人が追出されたから、宋さんが居らぬやうになつたのではいかぬと云ふので皆引出した、其處で吃驚して宋漢章を呼び戻して現に其宋さんと云ふ人は中國銀行の總經理、詰り總支配人になつて居ります。さうすると又預金が返つて來た、斯う云ふやうな譯で、時代後れのやうなことが實際支那に於ては現實に行はれて居る。

それから物を賣買します場合に少く買つた方が支那では安い、多く買ふ時には高い、之も日本にない支那だけにある算盤でありますが、茶つぱを擔いで賣りに來る、其茶つぱは幾らだ、五錢、高いな、二錢に負け、出來ぬ、負からぬ、已れの茶つぱは上等だと値段で應待して居りますと、一體何把要るのか、一把で宜い、一把か、宜し〳〵一把なら二錢に負けてやると云ふ、其處で横で見て居つた人が、あの茶つぱ二錢なら安い、二錢五厘でも安いから皆買つても宜いと思つて、皆買ふから一錢五厘に負けないか、出來ない、段々交渉して二錢に買ふがどうか、まだいけない、

今其處で二錢に一把賣つたぢやないか、それは一把だから二錢に賣つたので、一把なら二錢で賣つたつて損が小さいが、皆二錢で賣つたら損が大きくなるから賣れない、斯う云ふ算盤の立て方でありますが、それは考へて見ると、少しか買へない貧乏人のことを考へた算盤で、貧乏人には少し位どうしてやつたつて宜いぢやないかと云ふ考らしい、餘計買ふ人は餘計に金を持つて居るのだから餘計に貰つても宜い、と云ふ譯で餘計買ふと目方迄胡魔化す、米を買ふにしても餘計買ふと必ず目方を胡魔化して置く、少しづゝ買ふと餘計に入れて呉れる、斯う云ふ所が日本人と支那人と非常に違つた點である、何でもないことですがそれが一般的に行はれて居つて、聞いて見るとさうだなと云ふだけで、理窟は何にも一つも立つて居やしない、唯手がさう云ふことをして居るだけです。

總て支那のことにはさう云ふことがあります。目方のことをちよつと申上げますと、日本では一兩目と申しますと四匁が一兩と云ふことになつて居ります。あの一兩目は支那から來たに違ひないので、支那ではイーリヤン(一兩)と云ふのは十匁であるが、多分是は昔支那の商人が長崎に來て品物を賣る時に一兩目幾らと云ふので買ふ、其一兩目を多分四匁と云つて六匁胡魔化して居

つた、其胡魔化して居つたのが今日迄日本に傳はつて一兩目四匁となつて居つて六匁づゝ永く胡魔化されて居つたのであります。大分損をして居ると思ふ、斯う云ふ目方を考へると大變實は支那のテール(兩)と云ふものは分らぬやうになつて來る、ワンテール、一兩の目方を考へる時に十匁と考へれば間違がない、それを日本で新聞などに出るものがどうも一テールが分らぬので難かしいのですが、私共説明も何も分らぬのであるが、私共の頭には銀十匁が一兩目と分つて居るから何でもない、直ぐ勘定が付く、日本では一兩目が四匁になつて居るから勘定が出來ない、さうした間違ひが幾らも出て來ます。

能く支那人は形式家だと云はれる、支那人位形式的なものはないと云はれるが、併し考へて見ると政治家とか、軍人とか、坊さんの中では大分形式があらうと思ふけれども、併し一般の人間の中に於ては形式も無論あるが、併し形式よりは矢張り非常に實際的な生活をする、寧ろ餘りに實際的過ぎるであらうと思ふ位で、支那では實際的生活をするのが矢張り本當らしい、今でも日本軍が假に何處其處を占領した、さうすると支那軍が日本の國旗を持つて出て來ると云ふことを新聞で御覽になると、何だかをかしな風に感ずる、支那人が日本の國旗を持つて出て來ると云ふ

やうなことはをかしいな、是は事に依ると日本の方から國旗を拵へて持たしたのぢやないかと云ふ疑問さへも起るが、それは違つて居る、それは確かに斷然支那人が持つて出て來る、こつちから日本の軍隊が入つて行つて、支那の軍隊が逃げて行けば屹度日本の國旗を持つて出て來る、拵へるのは何でもない、直ぐに日本の國旗を作つて持つて出て來る、支那では昔からさう云ふ習慣がある、先年國民革命軍が上海に入つて來ました時にノース・ステーション……此間爆擊されたノース・ステーションに國民軍が入つて來たと云ふ噂が立つと、上海の街にいつの間に用意したか分らないけれども全部青天白日旗が掲げてある、日本軍が入つて行けば日本の國旗が出る、南京に行つても同じこと、何處に行つても日本軍が勝つて入れば必ず日本の國旗が出る、是が實際生活です。日本軍が入つて來たのに青天白日旗を出す馬鹿はないでせう、日本の國旗を出せば良民として扱つて貰へると云ふことを知つて居るから出す、もう一つは此旗がお守りだと云ふことを知つて居る、甲が勝戰の時に甲に反對するやうなものを出せばやられる、甲の喜ぶ旗を出せば之以上に禍が來ないと云ふお守りと云ふことを能く知つて居る、支那人は何でも持つて居る、黄龍旗も持つて居れば、青天白日旗も持つて居れば、ユニオンジャックも持つて居れば、何でも持

つて居つてそれをいつでも出し得る、實は私共はさうした壓迫された生活と云ふものを本當にやつた經驗がないから、何だかそれををかしいやうに思ふのですけれども、あれだけ壓迫されて來ると已むを得ずあれはあゝ云ふ工合にやることを憶え、而も非常に上手にやる、其代り自分の國だけぢやない、先年上海の露西亞領事館に白系露西亞人が押寄せて、ピストルを擊ち、石を投げ、露西亞の領事館を襲擊したことがある、それを見に行つたことがありますが、行つて見ると白系露西亞人が澤山寄つて赤色露西亞の領事館を取卷いて居る、工部局の巡査が居つて警戒して居りましたが、其時に吃驚したとは、今白系露西亞人が赤色露西亞の領事館を襲擊して居ると云ふ時に、其時に非常に私に異樣な感じを與へたのは、支那人が白系露西亞の昔のあの淺黄と赤と白の國旗を胸にさすものや、手に持つものを露西亞領事館の前に行つて賣つて居る、それを又露西亞人がちやんと買つてさして居る、其位早いことをやる、自分の國のことで色々な旗を出すだけぢやない、他所の國のことでも旗を出す、實際是は私共豫想の付かぬことですが、支那人は實にさう云ふことを知つて居る。

魯迅さんが斯う云ふ面白い話をしたことがあります。それは袁世凱と云ふ人はなか〳〵怪物だ

皆が怪物だと云ふけれども、本當にあれは怪物だと云ふことを魯迅さんが話しましたが、どう云ふことをやるかと云ふと、袁世凱が人を採用する場合に試驗をする、其試驗をどうしてするかと云ふと、非常に立派な客室があるさうですが、其處に採用される候補者が通される、椅子とテーブルを與へられて其處に坐らされる、三十分や一時間位待たせるのは支那人は平氣の平ざですが二時間も三時間も待たせて出て來ない、其部屋に入れたつきり放つて置く、其部屋には書畫骨董が一杯ある、又下には金銀珠玉が一杯並べてある、さうして隣の部屋から袁世凱が穴を開けてぢつと見て居る、迚も面白い試驗の仕方をするさうですが、二時間三時間待たされると、流石に氣の長い支那人でも怠屈になつて來る、立上つて書畫を見るとか、骨董を見るとか、或は金銀珠玉を見る、い〻珠だと思つて見る、ずつと並べて置いてある、自由に手に取つて見られる、見て居る中にい〻翡翠の珠がある、見て居るとつい欲しくなる、誰も見て居らぬ、立派な珠である、それが澤山あるのですからちよつと盗つても分りさうにない、其處でちよつと一つ失敬してしまふ、それで試驗が終る、さうすると袁世凱が其處へ出て來て、あなたは明日から來て下さいと云ふ、若しもさうした場合に候補者が二時間も三時間もぢつと椅子に腰掛けて清廉潔白、金銀珠玉が幾らあつても關係なしと云ふやうな態度でぢつとして居ると、半日でも一日でもぢつとして居ると、矢張り袁世凱はぢつと見て居るさうですが、出て來て、あなたは折角ですがいけませぬ、と斷はつてしまふ、此處の見方が面白いです。實に面白い所がある、我々は清廉潔白でなか〳〵實は採用して戴けぬ方ですが、此袁世凱のやる態度を見ると、どうしても成程怪物だと思はれる、盗んだ奴をぢつと見て居る、其人の弱點を握つたので自由自在になる、其人間を使ふことが自由自在である、それが非常に潔白で金銀珠玉何ものぞと云ふやうな奴は使へない、月給を餘計やつたつてさう云ふのはなか〳〵云ふことを肯きやしない、それを袁世凱が知つて居ると云ふ所が偉いと思ふ、魯迅が、實に彼奴は怪物だと云ひましたが、本當にさうだと思ふが、これは又支那人の多くに共通する考へ方でもある。

支那人のもの〻考へ方はいつでも裏を考へる、私共の考へることの大概裏を考へて居る、日本からいらつしやる方は、最近の支那の新生活運動と云ふものを必ず云はれる、南京などにいらつしやつた方は支那の新生活運動と云ふものを必ず云はれる、なか〳〵新生活運動はえらい、どうしたのですか、と云ふと、南京の街で煙草をくはへて居ると、巡査がいけませぬと云ふ、僕は何

遍もやられた、道路に唾を吐くと叱られる、なか〳〵巧くやつて居ると云はれる、さうして新生活運動に關係した本は何かないかと云ふ、私は商賣ですから買つて戴くのは結構でありますから、云はれると何十種とあるから、宜しい買つて來ませう、併し買つて貰ふ時に私は、それを御買ひになる方は日本人だけだ、支那人は決して之を買はない、日本人だけが皆之を御買ひになる、それだけ私御注意して置きますと云ひますが、それを買つて御歸りになつて、盛に日本の新聞や雜誌に支那の新生活運動、支那の再認識と云ふものが出て來るが、私共はどうもさうは思へない、新生活運動と云ふものゝ旗を振り廻した時には其後に何か隱すものがある、何を隱す積りで新生活運動の旗を振つたかと私は考へて見て居つたのですが、揚子江の洪水で何千萬人と云ふ大きな水難民が出來て來た、それを救濟すると云ふことが實は出來て居ない、所がそれを救濟すると云ふ名目で棉麥借款と云ふ大きな借款が出來た、其棉麥借款の結末はどうなつたかと云ふことを考へて見ると、私大概の支那人に聞いて見ると誰もそれを知つて居る人はない、支那の財政の批評家で一人可成り辛辣なことを云ふ男ですが、其男を捉まへて棉麥借款の結果はどうなつたか、到頭新生活運動で胡麻化されちやつた、さうだ、あれは到頭やられた、と云つて居る、さう云ふものを片付けるのに、人間の頭に思ひ出させないやうに、支那人の政治家は思ひ出させちやいけない、成るべく忘れさせる爲に外に大きな旗を振つて見る、さうすると、それが振られると、日本人は正直な爲に其旗に釣られて旗ばかり見て居る、さうして僅か煙草を捨てろとか、唾を吐いちやいけないとか、其程度の新生活運動をさもそれが立派に出來て居るが如くに考へる、倒まです、出來て居ることが……煙草を捨てろとか、唾を吐くな位のことしか出來て居ない、それを其處迄出來て居ると日本人が思ふ、向ふはそれだけしか出來て居ない、其違ひで非常に見方が違ふ、ですから支那の再認識と云ふことが盛に云はれますが、私も再認識の點は贊成する、贊成するが此程度なら私贊成する、それは女の足のことですが、支那の女の足は纏足と云つて括つてある、此纏足と云ふものは、いつ頃からやつて何からやつたと云ふことは私はつきり分らないが、大體に於て纏足と云ふものは、是は私は働かなくても宜い階級の人間だと云ふことの證據であるらしい、それは男の人が指の爪を長くするのと同じだと思ふ、今は殆どなくなつて居りますけれども、長い爪を拵へて之に竹の筒とか瑪瑙の筒或は翡翠の筒を欲めたりしますが、厄介なものであります。伸びると曲る、曲ると撚れたりするので毎日朝起きますと熱い湯に入れて其中に浸けて置

いて、三十分位浸けて置いて、それを出してそれから按摩を始める、又此按摩に三十分位かゝる、按摩が濟むとそれに筒を被せる、さうでないとおもてが歩けない、さうして上を向けて歩いて居る、どうしてこんなことをやるかと云ふと、いつ頃から斯うなつたのか分らぬのですが、支那人は勞働する者と勞働しない者とがはつきり分れて居る、勞働しない人は子供の時から勞働しない、私共店の小僧を雇ひますが、其時に大きくなつてから番頭になるやうな者は、子供の時から拭掃除も何にもしない、机の所に行つておもてを見て居る、其處らを掃いたり拭いたりするのは苦力と云ふ奴でないとしない、此點が日本人の店の方に分つて居ないのがあつて、苦力の子供を連れて來て段々に位置を上げて番頭さんにする、さうすると金を盗つて逃げると云ふのは必ずさう云ふ者で素性が違つて居る、素性が違つて居ると大概それをやる虞がある、除外例はありますけれども、大體に於て彼奴は己れの家に十年も十五年も居る人間だから、大丈夫だと思つたと云ふやうな者が金を持つて逃げる、それは使ひ方が間違つて居るのでありますが、又同じ苦力でも金を運ぶ苦力はどうした譯か斷じて間違ひがない、是は實に間違ひがない、何萬圓の金を運ばせても間違ひがない、それは商賣で決つて居ると見えて惡いことをしない、小さい時からちつとも働かぬ

奴が大きくなつて番頭さんになる、さう云ふ風にきちつと働く人間と、働かぬ人間は決つて居る、それは今日尚ほきつかりと分れて居る、其證據には、立派な紳士が街の中に立つて乞食と平氣で立話をして居る、中には長々と乞食の一代記を聞いて居るのがある、成程々々と云つて聞いて居る、一生懸命話して片つ方も聞いて居る、乞食と兄弟かと思ふと何でもない人間がそれを聞いて居る、乞食と話をすると云ふことは平氣です。併し勞働者と話をしろと云つても決してしない、用事以外の話は決してしない、なぜかと云ふと、あれは勞働者だ、苦力だ、苦力と我々は違ふと云つて決して話をしない、それがなぜ乞食と話をするかと云ふと、支那人の考へ方は違ふ、日本人が考へれば苦力の方がまだ働くだけ偉いやうに思ふが、支那では考が違ふ、あの乞食は苦力にさへもなることが出來ない良い生れの人だ、あの人は生れが良いから苦力になつて働くことが出來ない、其處で已むを得ず乞食をして居るのだ、乞食の方が身分が良いと云ふ譯で、それで平氣で乞食と話をして居る、斯う云ふ工合に形式は勞働者と云ふものと、働かぬ人間と云ふものとはつきり分れて居る、男の人が何處迄も働く階級と、働かないでも宜い階級と分れて居るが、同時に女の人も足を括つて、是は性慾的關係からだとも云はれますが、それは多分出鱈目だと思ひます。

そんなことよりも女の足を括るのは一番初めはブヨー(舞踊)の關係だと云ふが、其處は分らぬが、兎に角小さい時から足を括られる、さうして私は働かぬでも宜い階級の人間だと云ふことを示して居る、是は花柳界が其流行を助けたと思ひます。支那の藝者と云ふものは大概子供の時に買つて來て育てるが、其時に足の大きいと云ふことは女の惡口で、お前の足を見ろと云ふことが女に對しては一番侮辱な言葉です。お前の足を見ろ、大きいぢやないか、と云ふことが、大きな足(大脚)と云ふことが一番女を侮辱した言葉です。それ程大きな足を厭がる、所が買つて來る子供は多くは勞働者とか百姓の子供を買つて來るので、それが足が大きいと如何に別嬪でも、あれは大脚で出所が惡いと云ふことを云はれるので、足を括つて是は働かなくても宜い階級、華族の落し胤だとか何とかと云ふことにしてしまふ、藝者となつて出る時に非常に便利ですからどれでも纏足をやつて、私共の方の子供は皆之ですと云つて自慢をして居つたのだと思ひますが、それが非常に流行を助けてどん〳〵擴がつて行つたのだと思ひます。足を括りますと腓と云ふものが一つもなくなる、丸で竹筒の樣です、歩くに不自由であり括つた足がしく〳〵痛むのでどうしても神經の焦躁が起つて來る、何にも自分の自由にならないので人を使つて取らなければならぬ、其處で家庭

の中に於ても召使が餘計に要る、大勢の者を使つて仕事をさせることになる、私共でも分るやうに痒い所を自分で掻けば譯なく掻けるが、人に掻かせるとなか〳〵巧く掻けない、特に支那人の頭の惡い阿媽などを使ひますと、何を持つて來い、かにを持つて來いと云つてもなか〳〵分らぬので焦ら〳〵して來る、其處で益々やかましく云ふやうになる、それが段々嵩じて來ると裂帛の聲と云つて布を裂くやうな聲を女がする、纏足の女は皆頭の頂邊から聲を出して非常に痛高な聲で而も早口、それが其處で止まれば宜いけれども、其擧句には子供のけつを叩くと云ふやうになる、其處で止まれば宜いが、もう少し酷くなると親爺もやられるやうになる、擧句の果には親爺がマーケット籠を持つて買物に行く、支那では大體に於て主人が買物に行つて菜っ葉や大根を買つて來る、我々は幸にしてさうではありませぬが、支那では大體さうです。さうして買つて來た大根はどうだとか、菜つ葉がどうだとか云つて必ず一遍は其ピーの聲で叱られる、一遍叱られて是から氣を付けなさいと云はれる、叱られる時は仕方がないから亭主は煙草でも喫んでぢつとして居る、少し氣慨がある男になるとそれが出來ないから嫁を持つて子供が出來る、家の中に戀々として居られないと云ふ譯で家を出て行く、さうして北京、上海と云ふやうな町に行つて役人になつて

働く、或は商賣人になつて働く、初の中は一生懸命になつてやりますが、少し餘裕が出來て來ると、一箇月なり二箇月で歸れば宜いけれどもさう云ふことも出來ない、それで一年なり二年なり町に一人で居る、さうすると生理的關係から男は女を要求する、其處で女が出來る、是が支那が一夫多妻に來る道で、もつと澤山外の道もありますが、之も其一つの道です。此處で女が出來て家庭を持つ、家庭を持つが暫くするとピーの聲に苦しめられて此處に居ることが出來なくなる、其處で又外の町に變つて行く、初の中はおとなしく一生懸命やつて居るが、又永くなると生理的關係で女が出來る、女が出來ると又ピーの聲に苦しめられる、さうすると又外の町に變つて行く、轉々として行く先々で一人づゝ家内を置かなければならぬことになる、是が一夫多妻を作り出す一つの道でありますが、自分の故郷には歸りたくても歸られず、正妻が居るので一年に一度位は歸つて來るが、さう云ふ人は宜いが、さう云ふ人は極く少い、大多數の男は自分の家に居つてマーケツト籠を下げて大根買ひに行かなければならぬ、斯うなつた時に一體支那人はどうなるかと申しますと、支那は最近迄眠れる豚だとか、眠れる獅子であるとか云はれましたが、頭に眠れると云ふ字が付て居た、支那がなぜさうなつたかと云ふと、是は女の足を括つた罰で、男がマーケツト通ひをしなければならぬやうになつてから、支那の文化の發展は止まつてしまつたと思ふ、所が最近に至つて耶蘇教が支那に入つて來ますと同時に、天足運動と云ふものが起つた、今度の「てん」と云ふ字は天の足、天然の天と云ふ字で、括つた足を天然の足に戻さうと云ふ運動であります。ミツションスクールの人達が足を大きくしなければいかぬと云ふことになつて、支那の女の足を皆大きくした、尤も廣東、廣西の方では前から此纒足の禍から逃れて居た、どうして逃れて居たかそれは分りませぬけれども、ミツション方面が盛に天足運動をやつて足を元に返さなければならぬと云つて居ました時に支那に革命が起つた、辛亥革命が成功致しました時に男の頭の辮髪を切つた、それと同時に女の括つた足を止めて足を大きくしろと云ふことで、それが擴がつて參りまして、國民革命の時には餘程足を括らない人間が多くなつて來た、それから纒足が解放せられまして今日では約二十五六の丁度支那の今嫁さん盛りの女の人でありますが、極く最近になりまして實は私支那の女の人の聲が、知識階級の女の聲が非常に低音になつたことに氣が付いたのであります。其處で私支那の人に女の人の聲が非常に低くなつたと思ふが氣を付けて見て呉れと云ひましたが、其後皆氣を付けて呉れまして、矢張り非常に低音になつたと云ふことを申して

居ります。なぜ低音になつたかと云ふことを考へると、足を解いた關係上足が自由に出來る、其處で外に出て來る、外に出るから見聞が廣くなつて凡てのことが云ふ通りに出來て來る、今迄のやうにピーの聲を出さなくても宜いやうになつて來て、其處に精神的な平靜からヒステリーから免れて來た、さうすると同時に男の人がやつて居つたマーケット通ひが女の手に戻つて來た、今日マーケットに男が來て居りますのは商賣にして居るコツク位のもので、其他は女が皆來るやうになつた、お主婦さんのマーケット通ひが多くなつて來た、それを合せて考へまして、男の手からマーケット通ひが女の手に戻つたので男に餘裕が出來て來た、それと同時に男が天下國家を考へる餘地が出來て來た、其天下國家を考へる餘地が出來て來た所に、今やかましく云はれる躍進支那と云ふものが出て來たのだと思ふ、やつと今になつて支那が今迄止まつて居た文化が再進化を始めた此位の程度なら私も支那の再認識に贊成であります。けれども斯うだから斯うなければならぬと云ふやうな極論にはちよつと贊成が出來ない、又支那の色々な事柄が、新しく立派な家も出來、立派な都會も出來つゝあります。併しそれは足を今漸く解いて今迄マーケット通ひをして居たのが、それを止めて天下國家を憂ふる時期になつて來たと云ふ位の程度の支那の再認識ならば私贊成であります。

最近になりまして日本語が非常に流行して居ると云ふことがありますが、是は成程日本語は非常に流行して居ります。併し此日本語の流行もちよつと違つた意味に於ける流行だと思ふ、と云ふのは日本語がはやりましたのは今から多分十二三年前に、實は日本語が大分支那人の間ではやりかけて來たことに氣が付いた、それで當時ちよつと日本の新聞の方にも御話したことがありましたが、非常に日本語がはやると云ふ電報が日本の新聞に出まして、それがあちらこちらに轉載されて、日本語が支那で流行すると云ふことが傳へられたのであります。日清、日露の戰後にも一度日本語がはやつたことがある、其時は日本語と云ふ言葉がはやつた、日本から日本人の先生が澤山支那の學校に入つたことがあります。今度は實は日本人の先生は一人もない、さうして日本語が非常にはやつて居る、それは今度は日本語がはやつて居るのでなくして日本文の文法がはやつて居る、それが以前の日本語と今度の日本語とが違ふ所で、今度の日本語は日本の本を讀みたい爲に日本語がはやるのであつて、なぜそんなにはやるかと云ふと、今度の革命政府を成功させたと云ふことは實は日本の留學生が革命戰爭を成功させ、引續きまして歐洲戰爭後に、日本に

入つて參りました社會主義思想が日本への留學生に依つて支那に傳へられた、其前にはミツション關係で英語がはやりまして、支那人同志で英語で話して居る者が澤山あつた、それ程英語がはやりました。それは色々の關係から英米留學生が澤山殖えたり、ミツションスクールの學生が多くなつた、さう云ふ關係から英語が非常にはやつたのであります。英語は御承知の通りに自由思想である爲に、より自由思想を持つて來た支那は英語に依つて餘り大した影響は受けなかつた、其處へ日本に留學して居つた支那留學生が日本で獨逸系統の組織思想を宣傳されて、それを支那へ持つて歸つて來て組織思想を盛に宣傳した、其處で初めて支那の若い連中が、是はちよつと違ふなと云ふことを感じて來た、さうしてそれが支那でやかましく云はれて居る革命時代、革命思想と云ふ革命の尖端に行つて居るマルクス・エンゲルスに引つ付て來た、それと引つ付てまんまと革命を成功させたのですが、それをやつたのは日本の留學生が新しい組織思想を持つて行つたからと云ふことになり、日本留學生と云ふものはそれ迄は非常に不遇であつたのが、其處で一躍頭を上げて來た、今日でもさうですが、法科或は文科は日本留學生でなくちや學生は集まらない、寄つて來ない、一番甚しかつたのは湖南大學には日本留學生が一時に十三人も教授になつて行つたことがありました。法科、文科は今日でも矢張り日本留學生が一番中心になつて居る、さうして支那を引張つて居る、日本の留學生は初めて其時に値打が出て來た、さうすると前には英語の方をハイカラのやうに思つて居つた手合ひ迄が日本から歸つて來た奴は偉い、英語は下手だけれども學問はして居ると云ふことが一般の頭に入つて來て、日本留學生と云ふものは非常に引張り凧であつた、丁度其時亞米利加からデューイーとか、英國からラッセルと云ふやうな人が支那に來まして、なぜ支那人は教育を英語でするのか、支那の教育は支那語でしないかと云ふことを叫びまして、それに刺戟されまして、支那人經營の學校が澤山出來た、ミツションスクール全盛時代には日本留學生は不遇な位置に居つたのが、其日本留學生達が新らしい學校の教師になつて盛に組織思想を教へました。それから國民革命成功後確か昭和三年だつたと思ひますが、南京で中華民國教育聯合大會と云ふものを開いた時に、其席で劉大杰と云ふ人が支那の中等學校から英語を全廢すると云ふ意見を出したが、それは成立しなかつた、其後で今日武漢大學の學長である范壽康と云ふ人が、中等學校に是非日本語を正科として入れると云ふ提議をしたのであります。滿場一致それは可決した、滿場一致可決したが、確か其時には濟南問題が起つて居りまして、外交

上斯う云ふ時に、日本語を正科として採用すると云ふ決議をすることは宜しくないと云ふやうな又横から議論も出て、それは今度形を變へて兎に角表面上は自由科と云ふことになつたのですけれども、其時を境と致しまして支那全土の中等學校以上の學校には全部大なり小なり日本語が入つた、同時に上海邊りには盛に日本語の夜學校が出來て、どん〳〵日本語を習ひに來る、併し是はさつき申上げたやうに習ふのは日本の言葉でなくして日本文を習ふ、それから又面白いことには日本語を一つ習へば、無論日本語は獨逸語や佛蘭西語を習ふのに比較して短日月で習へる、二年か三年で本が讀めるやうになるから、日本と云ふ國には世界中の目ぼしい本は皆翻譯されて居る、それで日本語一つを二年か三年で憶えれば、世界中のあらゆるものを取入れることが出來ると云ふことが支那人の頭に浮んで來た、要するに支那の後れて居る泰西文化に、西洋諸國に日本のやうに追つ付かせるのには、どうしても飛躍しなければならぬ、飛躍するのには日本語が一番便利だ、日本語より便利なものはない、おまけに日本は凡てを東洋向きにして居る、それが可成りちやんと出來上つて居る、改造されて居る、其處で支那人は非常に便利とするので、今日支那で翻譯されて居ります露西亞の文學にしましても、獨逸の文學にしましても、英語の文學にしま

しても、其翻譯は必ず日本語からやつて居る、日本語を土臺にして必ず日本語の本を參照して翻譯して居る、是は私自分の商賣から實は自分には分る譯ですが、必ず凡てのものを翻譯する時には日本語の譯を參考にする、斯うしてやつて居りますので日本語がはやつて參りますけれども、是は日本語を取入れるのではない、日本を研究するのではなくして、實は泰西文化を支那が吸收しようと思つて、其飛石として日本語を使つて居ると云ふだけで、日本語、日本文法がはやつて居る、さう云ふ譯で日本には非常に親しみを持つてやつて居るかと云ふとさう云ふ意味ぢやないが、併し習つて居ればどうしても日本の色々な點に接することが多く、どうしても擴がらなければならぬ、どんなことがあつても擴がらなければならぬ、又戰爭がありませうとも必ず擴がり得るものと私は思つて居る、恐らく近き將來に於て今日の英語の位置は日本語が必ず代つて得ると私は信じて居ります。斯う云ふ意味で實は日本語がはやつて來て居りますが、それは利用するのならば利用させて宜いので、さうやつて居る中に又段々に良い結果が得られるやうになると思ひます。此間も文部省で話したのですが、日本語だけで中學程度、高等學校程度、又大學にも行かれると云ふやうに一つ日本でやつて欲しい、それさへやれば屹度日本語と云ふものは支那人の頭

に入つて來る、さうすると知らず〳〵日本文化が吸收されると云ふことになると思ふので、是非是は皆さんの御考の中に入れて置いて戴いて、若しさう云ふ案が出來ました時には御賛成を願ひたいと思ふ次第であります。斯うした日本人と支那人とが是だけ近しくなつて來て居つて、それで實は喧嘩をして居ると云ふことは非常に私は遺憾に思ふけれども、親しい者同志程どうせ喧嘩があるもので、今やつて居るものはそんなことだと思つて居ります。日本語を通じて支那と手を握ると云ふことが、一番可能だと思ひます。魯迅なども支那人と日本人と一緒に手が握れる、併しそれにはもつと日本が自由にものを云ふことが出來なければ駄目だ、それからもう一つ夏丏尊と云ふ私の知人は、日本人と支那人とは仲よく出來るが『云へば出來ない、云はなければ出來る』と申しました、此處をどうか御考へ願ひたい、長い間の御靜聽を感謝いたします。

經濟倶樂部講演第百六十七輯

昭和十三年一月三十日印刷
昭和十三年一月卅一日發行

非賣品

經濟倶樂部講演
—(167)—

發行所 東京市日本橋區本石町三丁目二
東洋經濟出版部
振替口座東京六五一八番

編輯兼發行人 神原周平 東京日本橋區本石町三丁目二

印刷人 本間十三郎 東京市牛込區矢來町三十六

不許複製

東京＝清揚社印刷＝牛込